

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>テーマ：観光地の地域研究</p> <p>国内観光地の地域研究である。観光地の地域的特性・問題点・観光開発のあり方を、観察・聞き取り・資料収集などの調査方法を用いて明らかにする。これによって、卒業論文の作成技法を習得する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表	25%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検	30%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるることができる。				事前・事後学習	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習	5%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は観光地域における野外調査である。 ・評価は、地域調査、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。 							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.研究地域の選定（目的・意義・場所・日程・方法など） 2.研究テーマ・内容の設定 3.地域調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集など5月下旬か6月初旬に日帰りで実施） 4.調査結果の分析・整理 5.研究成果レポートの作成 6.研究発表会 <p>注）専門演習ⅡBと共通テーマのもとに調査・研究する。また、旅費は各自で実費を負担する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、卒業論文を作成するために本格的な地域研究手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。地域研究の手法を習得するためには、文献・資料や観察・聞き取り調査で得たデータを用いて事象を分析・考察しなければならない。観光地域に関する学術書を精読することを希望する。</p> <p>※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：研究対象地域考案
2	前期（春期）研究地域の選定 省察・個人目標の設定	観光調査の目的・場所・日程等について検討する。 2年次の学修成果を省察し、3年前期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
3	地域調査の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
4	地域調査の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	地域調査の事前学習③	地形図を用いて土地利用図を作成し、現象を分析する。	予習：土地利用図作成 復習：土地利用の分析
6	地域調査の事前学習④	観光施設等の観察調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	地域調査の準備	観光調査の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	観光地調査	新緑の美しい5月下旬か6月初旬に1日調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期（春期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。夏休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
観光学とは広い学問領域を範疇とするが、個々の領域をマイクロに深めて行く事が重要であると同時に、マクロの視野から社会の全体像を展望する視線も重要である。この演習では、観光をマクロの視点から展望し、社会の動きを観光の視点から俯瞰する事で現代社会の動きのダイナミズムを学び、自分の意見をまとめ発表できる様になることを目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	観光立国日本が、今後どの様に観光産業全般を育成して行くべきか、またその為に観光学科での学びをどう生かせるかについて自分の意見を述べる事が出来る。				・ 討論参画 ・ 意見の陳述	30%	
情報収集、分析力	新聞、マスコミ、WEB、SNS 等の情報源を駆使して、自分の意見を裏付ける情報を収集し、自分の考えに沿って情報を取捨選択し、まとめる事が出来る。				・ レポート ・ 討議参画	50%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	自分の所属しない社会の現象を知り、その現象の負って立つ背景を説明できる様になる。				・ レポート ・ 討議参画	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を、口頭と文章の両方で表現できるか否かを重視する。答えが与えられるのを待つのではなく、自分はどう考えるという事をグループディスカッション等を通じどれだけ表現できるかが重要である。15 週の中で各学生がどの様に考え、どの様にそれを表現したかを評価軸におくので、筆記試験は行わない。評価の対象となるレポート等へのフィードバックは適宜返却時等に行う。							
授業の概要							
観光を構成する業種を再検証し、観光立国日本の観光の今後のあり方を再確認する。学生が自分なりの解答を見つけて出す事を目標とした授業となる。学外調査や外部講師の予定等により授業振り替えが発生する可能性がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメ等は授業時に配布する。 指定図書：『観光白書/平成28年度版』観光庁（授業時に配布予定）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習のキーワードは、「社会全般への好奇心」である。「好奇心」を持って社会の動きに興味を持つ事、興味をもった事の情報収集に努める事、集めた情報を取捨選択し、判断し、何故そのような現象が起こっているのかに対して自分で解答を出せる事、出した解答をグループディスカッション等を通じ発表し、またレポート等を通じ文章化できる能力を身に付けたい学生の参加を望んでいる。安易な単位取得のみを目指す学生の参加は希望しない。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	どのようなメンバーとどのようなゼミを展開してゆくのかの確認、方向性の説明とメンバー自己紹介等。	予め指示された課題レポートを作成し持参する。
3	日本の観光業を再考する (1)	観光立国として 2020 オリンピック年に 4,000 万人のインバウンド観光客の招致を目指す日本の観光業界の、今日的課題をグループ討議により洗い出す。	観光業界全体の問題点と考えられる事をまとめておく。
4	日本の観光業を再考する (2)	観光立国の中心的役割が期待される旅行業の求められる姿を考察する。	(1) で共有した現状に関し、自分の意見をまとめておく。
5	日本の観光業を再考する (3)	日本が目指す観光立国の具体的な姿を再確認し、問題点や現状への理解を深める。	共有した情報を基に観光立国の現状に関し、自分の意見をまとめておく。
6	日本の観光業を再考する (4)	観光立国の実現に向け、行政が示した方向を確認し、具体的な施策内容を検証する。	観光立国に向けた政府提言内容を再確認する。
7	日本の観光業を再考する (5)	各自が観光立国の求められる姿への提言をまとめ、仮説として発表する。	事前に必要な情報を調査し、発表の準備をする。
8	ホテル業の現状を把握する (1)	観光の重要要素である宿泊業のうち、特に外国人観光客受け入れの中心となるホテルの現状を把握する。	ホテルの現状に関し、自分の知識をまとめておく。
9	ホテル業の現状を把握する (2)	2020 年に向けホテルに関する必要な変革等に関しグループ討議により問題理解を深める。	共有した情報を基にホテル業の今後に関し、自分の意見をまとめておく。
10	ホテル業の現状を把握する (3)	各自がホテル業の現状と 2020 年に向けた提言等をまとめ、仮説として発表する。	発表の準備をする。
11	テーマパークを考える (1)	地域の大きな集客装置となっているテーマパークの現状を理解する。	事前に必要な情報を確認しておく。
12	テーマパークを考える (2)	テーマパークで働く方々の現場の話を書く事で現状の理解を深める。(外部人材を交えた討議を予定)	(1) で共有した現状に関し自分の意見をまとめておく。
13	テーマパークを考える (3)	実際にテーマパークに入園し、確認して来た仮説を検証する。(テーマパークでのフィールドワークを予定)	テーマパークの現場でどのような運営がなされているのか検証準備をする。
14	テーマパークを考える (4)	各自がテーマパークの現状と今後に向けた提言等をまとめ、仮説として発表する。	発表の準備をする。
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	井上 英也 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な精神として、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力”“考える力”“表現・行動する力”を養い、観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	グループでホテルに宿泊し、ゲストの観点からインスペクションを実施する。計画、実施、報告書作成、改善案の報告のプロセスの中で積極的に役割を果たし、グループに貢献することができる。				授業への積極姿勢 ホテル・インスペクションへの積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人旅行者が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 「課題レポート」は提出時期 (30%) 内容の論理性・独自性 (50%) 文章構成力・形式要件 (20%) で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する</p>							
授業の概要							
<p>ホテルを利用するゲストの視点からホテルを評価する手法を学び、インスペクター (評価者) の体験をする。また、地域観光におけるホテルの役割、インバウンドビジネスの仕組みなどをグループ・アクティビティにより修得する。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「新・観光立国論」デービット・アトキンソン							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。 ③「ホテル管理論」「ホテルビジネス英語」「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。 ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。 ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバーおよび教員の自己紹介、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	個人目標を設定するための面談を実施する。	(予習) 個人目標を考えておく
3	ホテル・インスペクション①	ゲスト視点から、ホテルの施設(ロビー/客室/レストランなど)およびサービス(フロント/レストランなど)をチェックし、評価する手法を考察する。	(予習) ホテルを利用した時にチェックする項目をリストアップする
4	ホテル・インスペクション②	ホテルを評価するためのチェックシートを作成する。(日本人ゲスト、外国人ゲスト、それぞれのホテルに対する要望を想定する)	(復習) チェックシートを完成する
5	ホテル・インスペクション③	ホテル会社からゲストスピーカー(実務家)を招き、インスペクションについて話し合う。また②で作成したチェックシートの内容を確認する。	(復習) チェックシートを修正する
6	ホテル・インスペクション④	佐世保周辺のホテルに宿泊し、インスペクションを実施する。	(復習) レポートに取り上げる内容を準備する
7	ホテル・インスペクション⑤	インスペクションの結果をグループで討議し、ホテル会社に対するレポートを作成する。	(復習) レポートを完成する
8	ホテル・インスペクション⑥	ホテル会社に対し、インスペクションの結果から改善提案を行う。	(予習) プレゼンテーションの準備をする
9	日本版 DMO におけるホテルの役割①	今後の地方創成の中で、観光振興の柱として期待される DMO(Destination Management Organization)について学ぶ。	(予習) 日本版 DMO について、国土交通省のウェブサイトなどで調べる
10	日本版 DMO におけるホテルの役割②	佐世保・小値賀島観光圏について、ゲストスピーカー(実務家)を招き、DMOの現状と今後の取組みについて情報提供を受ける。	(予習) 佐世保・小値賀島観光圏についてウェブサイトなどで調べる
11	日本版 DMO におけるホテルの役割③	学生の視点で、観光圏におけるホテルの役割を考察し、レポートを作成する。	(復習) レポートを作成する
12	日本版 DMO におけるホテルの役割④	③のプレゼンテーションを行い、グループ討議により軌道修正した上で、レポートを完成する。	(復習) レポートを完成する
13	インバウンドビジネス事例研究①	長崎県内のインバウンドビジネスの現状を、ゲストスピーカー(実務家)から具体的な事例をヒアリングする。	(予習) インバウンドビジネスの現状を調べる
14	インバウンドビジネス事例研究②	①に関する実地調査を行った上で改善提案に基づきプレゼンテーションを行なう。	(予習) 改善提案を完成し、グループ発表の準備をする
15	専門演習ⅡAのまとめ	専門演習ⅡA 学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークなどの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会に参加して発表ができる。				プレゼンテーション勉強会での発表	10%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、プレゼンテーション、その他10%で評価する。 課題・レポートに対してのフィードバックはポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・博物館の日程・調査方法などを検討する。 ・現地調査を1日以上実施する。 ・研究発表会を行う。 ・研究成果レポートの作成と提出。							
教科書・参考書							
参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※現地調査の旅費は実費とする。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について	予習：シラバスを読む 復習：博物館調査館の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	見学館の事前学習①	博物館調査の場所・日程等について検討する。 博物館調査の具体的内容と割振りをする。	予習：博物館予備調査 復習：今回の復習
4	見学館の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	見学館の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	博物館調査	博物館及び地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	前期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
前半では、高齢者の健康づくりに関するテキストの輪読を通して、高齢者の健康づくりを科学的な視点からサポートする方法について理解することを目的とする。後半では、前半にテキストを通して学んだ知識や、その他の授業等で学んできた知識と、これまでの経験を通して得た知識や抱いていた疑問等を関連づけて考えることで、卒業論文のテーマを決定していく。また、テキストで扱う、生活機能の測定方法について、実践(実技)を通して修得することを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・ 生活機能の測定方法を修得する。				・ 実技試験	30%	
情報収集、分析力	・ 高齢者の生活機能を規定する要因について理解することができる。 ・ テキストに出てくる図表の内容について理解することができる。				・ プレゼン用レジュメ ・ プレゼン後のディスカッション	20% 30%	
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。				・ プレゼンテーション ・ プレゼン後のディスカッション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション(50%)については、前半のテキスト輪読では、テキストの担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションを行えているかを評価基準とする。また、後半の参考文献の紹介では、紹介する論文に記載されている内容を理解した上で、その内容を他のゼミ生に伝えられているかを評価基準とする。プレゼン用レジュメ(20%)については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。実技試験(30%)については、生活機能の測定方法を理解した上で測定ができているかを評価基準とする。							
授業の概要							
ゼミ前半は、高齢者の健康づくりに関するテキストを輪読していく(①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前(ゼミ時間外)に準備するものとする。ゼミ後半は、各自が興味を持った分野の文献を順番でゼミの中で紹介していく(①文献検索、②紹介文献決定、③精読、④要約、⑤レジュメ作成、⑥報告、⑦ディスカッション)。なお、②～⑤の行程については、担当者が事前に準備するものとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社 指定図書：『貯筋通帳』ワニマガジン社							

授業外における学修及び学生に期待すること

本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
2	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の設定	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(1)の精読
3	輪読 (1)	生活機能を規定する要因(1)「歩行能力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(2)の精読
4	輪読 (2)	生活機能を規定する要因(2)「下肢における筋量の維持と増進」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(3)の精読
5	輪読 (3)	生活機能を規定する要因(3)「筋の発揮する力およびパワー」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(4)の精読
6	輪読 (4)	生活機能を規定する要因(4)「全身持久力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(5)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(5)の精読
7	輪読 (5)	生活機能を規定する要因(5)「身体活動量」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(6)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(6)の精読
8	輪読 (6)	生活機能を規定する要因(6)「身体組成・肥満」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(7)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(7)の精読
9	輪読 (7)	生活機能を規定する要因(7)「筋持久力」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(8)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(8)の精読
10	輪読 (8)	生活機能を規定する要因(8)「精神健康度」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(9)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(9)の精読
11	輪読 (9)	生活機能を規定する要因(9)「生活の質」	生活機能を規定する要因(1)～(9)の復習
12	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマについて、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
13	プレゼンテーション (1)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
14	プレゼンテーション (2)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
15	プレゼンテーション (3)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (3)	卒業論文のテーマについて考える

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 観光学の基本的な理解と、佐世保・西九州に関わる国際交流史の学修に基づいて、三川内焼の特徴を説明できるようになる(2つの言語で)。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	25%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	35%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習への貢献度	10% 10%	
協働・課題解決力	①三川内フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。				フィールドワーク・学術発表参加	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への貢献度	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴(毎回)、自他の文化の尊重(毎回)、フィールドワーク参加状況(実施時)、ゼミ内発表会(グループワーク)、期末レポートである。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題(マナバに出題):授業中、プレゼンテーション:当該授業時、期末レポート:提出締切後(個別に)							
授業の概要							
ゼミ生どうしで協働し、各種資料の調査、レポートの作成ならびに報告する経験を積み重ねる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書:指定しない。 参考書:『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書:大橋康二(2004)海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
(1) 開国祭での学術発表への参加を、必須とする。(2) ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい(必須ではない)。(3) 3コースの履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスの内容を理解し、質問に答えられるようにしておくこと。 (復習) 指定された資料を収集し、次回に持参すること。
2	省察	2年後期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	事前準備 1	①三川内焼の概要、②三川内へのアクセスについての調査結果の報告	(予習) 自分で集めた情報ならびに配布された情報を読み、内容を理解しておく。
4	事前準備 2	①陶磁器の製作方法、②部分の名称についての調査結果の報告	(復習) 指示された事項の説明を箇条書きのリストにし、次回提出する。
5	事前準備 3	フィールドワークのスケジュール決定	(予習) 演習で提示できるようにスケジュール案を作成する (復習) スケジュール通りに実施するための確認をする。
6	フィールドワーク実施	フィールドワークの実施	(復習) 次回での報告に向け、調査メモを整理し、印刷する。写真・動画は報告に使うものを絞り込んでおく。
7	フィールドワーク振り返り 1	フィールドワークの報告 (速報)	(予習) 5 分程度の報告メモを作成・印刷する。(復習) 各人の報告のよかったところをメモにまとめ、次回提出する。
8	文献講読 1	中国の陶磁器の歴史	(予習) 所定の資料の要約 (復習) 「速報」に追加する内容を、次回で提出する。
9	文献講読 2	朝鮮の陶磁器の歴史	
10	文献講読 3	三川内焼の特徴	
11	文献講読 4	佐世保と三川内の観光の現状	
12	フィールドワーク振り返り 2	①第 8 週～第 11 週の学習内容を「速報」に反映させたプレゼンテーションを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク振り返り 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット (A4 版 1 ページ) にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション (3 分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) ①プレゼンの評価、②目標到達状況の確認
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③後期に向けての改善点、④次の調査対象地の検討、⑤期末レポートの指示	(予習) 三川内焼についてのさらなる調査事項のリストを用意する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類 型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『日本人の英語』マーク・ピーターセン (著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	寺社1	寺社に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文1-10音読筆写
4	寺社2	寺社に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文11-20音読筆写
5	飲食店	飲食店に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文21-30音読筆写
6	自分の意見を言う①	効果的なグループディスカッションについて学ぶ①（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文31-40音読筆写
7	食べ方	食べ方に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文41-50音読筆写
8	浮世絵1	浮世絵に関する表現1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文51-60音読筆写
9	浮世絵2	浮世絵に関する表現2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70について調べる 復習：英文61-70音読筆写
10	温泉	温泉に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文71-80音読筆写
11	温泉の効能	温泉の効能に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文81-90音読筆写
12	自分の意見を言う②	効果的なグループディスカッションについて学ぶ②（レベル2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文91-100音読筆写
13	祭り	祭りに関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文101-110音読筆写
14	獅子舞	獅子舞に関する表現、TOEIC問題テスト実施、翻訳研究、ディスカッション	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文111-120音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅱ A (CF301)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<ul style="list-style-type: none"> 企業が直面する課題や問題点について、どのような種類のものがあるかを理解する。 ケーススタディを通じて、企業の持つ課題・問題を発見する能力を養成する。 ディスカッションの進行役としてのスキルを身につける。具体的には個別の意見を上手く集約したり、議論が適切な方向へ宿曜に整理できるような能力を身につける。 							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実社会で起こり得る企業内の問題・課題に、どのような種類のものがあるかを理解できる。また個々の問題に対し、解決するための様々なアプローチ法を習得できる。				<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 受講者のプレゼン 	30%	
情報収集、分析力	将来就職した際に直面するであろう企業に内在する問題・課題を予め想定し、それを解決するためにいかなるアプローチが必要かを提案できる。				<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 受講者のプレゼン 	35%	
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。進行役としてディスカッションを効果的に進めることができる。				<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発言内容 受講者のプレゼン 	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力	『企業で働く』ということの重要性を認識でき、『企業で働く』上で起こり得る問題に対し関心が高まる。				<ul style="list-style-type: none"> 授業内の発言頻度 	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 最終回に受講者に対しプレゼンテーションおよび課題レポート提出を課す。課題レポートについては、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。プレゼンテーションも同様だが加えて時間内で簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。課題レポートおよびプレゼンテーションの内容については授業内で指示をする。 ケーススタディを進めていく中で、個々の受講者につき1つのケースを担当してもらい、そのケースについてプレゼンテーションを行うとともに、かつディスカッションにおける進行役を担ってもらい、そのプレゼン内容や、進行役として適切だったか否かを対象とする。なお、本科目の受講学生数にもよるが、個々の学生は複数回この進行役を担うことになる。 授業態度・授業への参加については、発表の内容とディスカッションへの参加度合いを評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習ではケーススタディを通じて、経営学の知識を更に深化させていく。具体的には、各コマ担当学生がまずケース内容のプレゼンテーションを行い、それを基にケースに内在する問題について全員でディスカッションを実施する。この学修を通じて、企業で起こり得る問題・課題を想起でき、それを改善するための必要な知識・行動が修得できる。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書；専門演習Ⅰで使用した「1からの経営学」（中央経済社）を毎回持参すること。</p> <p>参考書；「ゼミナール経営学入門」（日本経済新聞社）</p> <p>指定図書：「入門経営学」（新世社）</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

コースについては問わないが、下記のいずれかに該当する学生の履修を希望する。
 ・経営に興味を抱くもの
 ・将来新規ビジネスを起業しようと考えているもの
 ・店舗経営等に関心を寄せるもの
 ・人前で話す力やプレゼンテーション能力の向上に努めたいもの
 また、全学共通科目の「経営学」を未履修の学生は3年次に履修することも本演習の受講条件とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の受講者の紹介や演習形式の説明、また円滑な運営を行っていく上でのルール等の説明を行う。	履修した「経営学」の感想についてまとめておく
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習；前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習；本学期的目標設定の清書
3	ケーススタディについて	『ケーススタディとはなにか?』その概念について理解する。	「ケーススタディ」という言葉の意味を調べてくる。
4	ケーススタディ① 「職場づくり」	「働きやすい職場」をいかにして創造していくかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む
5	ケーススタディ② 「効率的な仕事の方法」	「効率的な時間の使い方」をいかにして個々の従業員が実現していくかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
6	ケーススタディ③ 「有効な会議の実践例」	働く上で頻繁に遭遇する「会議」や「打合わせ」。それらをいかにして有益なものにするかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
7	ケーススタディ④ 「職場のリーダー像」	企業内の「リーダー」という立場の人間は、どのようにそのグループを統括するべきかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
8	ケーススタディ⑤ 「営業職とはⅠ」	新卒の従業員の多くが体験する「営業職」。営業のやり方について、また営業職の扱い方についての課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
9	ケーススタディ⑥ 「営業職とはⅡ」	新卒の従業員の多くが体験する「営業職」。営業のやり方について、また営業職の扱い方についての課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
10	ケーススタディ⑦ 「情報管理の重要性」	企業における「情報」をいかに安全に管理していくかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
11	ケーススタディ⑧ 「新規システム導入」	これまでなかった「新規」のシステムやプロジェクトをいかにして企業内に根付かせ活用するかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
12	ケーススタディ⑨ 「CS向上にむけて」	顧客の「不満」をいかに最小限に抑え、顧客の「満足度」をいかに最大限にしていこうかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
13	ケーススタディ⑩ 「経営再建に孕む問題」	企業の「経営再建」はいかにして実践されるべきで、いかなる点に留意すべきなのかという課題を中心に、実際に起こりうるケースを通じて議論する。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
14	研究発表①	各自がケースを自作しそれについて発表する。発表後は全員でそのケースについて議論する。	担当者はプレゼン準備
15	研究発表②	各自がケースを自作しそれについて発表する。発表後は全員でそのケースについて議論する。	担当者はプレゼン準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、受講者が文献を講読・発表・議論の中で、文献を批判的に読み解き分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、他者と建設的な議論をする力、これらの力の養成を図りたい。テーマは「日本の教育と社会を語ろう、考えよう」とし、現代日本の教育問題や社会問題を討議していく。また文献の講読等を通じて、テーマに関わる基本的な法律や制度、時事問題の基礎知識を習得することもねらいとする。							①⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本の教育や社会問題等の時事的問題に関する基本的語句や事項を習得し、法律や制度の面からも、その事象の問題性を指摘できる。				レジュメ 発表と議論	15 % 15 %	
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。				レジュメ 発表と議論	15 % 15 %	
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。				発表と議論	20 %	
協働・課題解決力	子ども達を取り巻く環境や日本社会が抱える問題について、自分なりに問題点を指摘し、解決に向けた方策を提案することができる				レジュメ 発表と議論	10 % 10 %	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を40%、発表と議論を60%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による批判的考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については、志水宏吉編『岩波講座 教育』全7巻に掲載されている論考を担当者がレジュメにまとめ、授業ではそれを基に議論する。また論考を読むにあたり、予備的、基礎的な事項を修得するため、教育学の教科書等で関連事項を習得する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：指定しない 指定図書：志水宏吉編『岩波講座 教育』（1～7巻）岩波書店（2016） 参考書：勝野正章・庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣（2015） 木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣（2009）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。 また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程を履修しているもの ・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの ・子どもや教育の問題について関心のあるもの ・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの <p>※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p> <p>※専門演習ⅡA終了後、夏期休暇中の課題として本1冊の講読を求める（発表は専門演習ⅡB）。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	興味関心を高める①	各自が最も興味を持っている教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
4	興味関心を高める②	各自が最も興味を持っている教育問題・社会問題に関する新聞記事を紹介し、受講生全員で議論する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
5	興味関心を高める③	『岩波講座 教育』の全7巻から講読したい論考を選び、発表担当者を決定する。報告手法(レジュメの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。	予) 担当したいテーマを考えておく 復) 報告手法の復習
6	基礎知識の修得①	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 子どもの貧困と学力	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
7	論考の講読①	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 山田哲也「格差・貧困から公教育を問い直す」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
8	基礎知識の修得②	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ネット社会と子ども	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
9	論考の講読②	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 土井隆義「ネット・メディアと仲間関係」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
10	基礎知識の修得③	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: ジェンダーと教育	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
11	論考の講読③	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 木村涼子「ジェンダー秩序を巡る教育のポリティクス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
12	基礎知識の修得④	次週扱うテーマについて教科書等を全員で講読し、基本的事項を修得する。 例) テーマ: 教師の仕事	予) 該当テーマに関する資料の講読 復) 基本的事項の確認
13	論考の講読④	担当者が作成したレジュメをもとに論考を講読し、議論する。 例) 伊藤美奈子「教師のメンタルヘルス」	予) 論考の講読あるいはレジュメの作成 復) 議論を振り返る
14	興味関心を高める④	日本の教育問題・社会問題について本演習で学んだことを整理し、発表する。また、夏季休暇中に講読する本のテーマを決定する。	予) 発表準備 復) 議論を振り返る
15	まとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題本を決定する。夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 課題本を見つける 復) 議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
放送用プロ機材を使った映像作成とFM放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。 観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する 前年度は番組出演、映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営を実践した。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる					課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	20%
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる					企画・番組内容	40%
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加をすることができる。					授業態度・活動への参加度	30%
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。					課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度。ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、グループディスカッションの発表内容。 映像作成・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容 放送活動や映像撮影を通じてまちづくりに関する活動への参加と報告書 放送企画における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。 プレゼンテーションやディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。 まちづくりや放送に関するフィールドワークは中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：「調べる技術・書く技術」 講談社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	資格の調査分析
3	放送機材の活用	放送用機材を使った撮影録音操作・活用を実践する	映画を作るときに必要な機材を調べる
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	番組・映像デザイン準備	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	番組テーマの決定
6	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	作成原稿の確認と読み合わせ
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	事例研究・分析
8	文書作成とデータ管理	文章の作成とデータベース、グラフィックスの演習	アプリケーションの動作確認
9	映像プレゼンテーション	ソフトウェア操作、字幕やテロップの演習	指定サイトの参照
10	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成と番組出演	作成原稿の確認と読み合わせ
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	指定サイトの参照
12	番組制作・情報発信	番組作成のための調査・取材実践。放送や作品の作成と番組出演	作成原稿の確認と読み合わせ
13	放送実施企画	放送番組や映像作品内容の確認と内容研究	内容の確認と発表練習等
14	事前制作発表	グループでの番組やコンテンツを企画し発表する	作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	制作発表	具体的な番組やコンテンツを企画し発表する	事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅱ A (CF301)			担当教員	小島 大輔		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本演習は、社会科・地理歴史科の指導法の基礎を習得し、模擬授業を繰り返し実施することで、学習指導要領に基づいた授業を効果的に行う実践力を身につけるために、以下の能力を涵養することをねらいとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科・地理歴史科教育に関する専門的知識・技能を修得し、現代の社会科・地理歴史科教育における様々な課題に適用して解決することができる。 ・社会科・地理歴史科教育に関する専門的知識を収集・分析することで、よりよい中学校・高等学校教諭になるための自己の成長などに役立てることができる。 ・グローバル社会における教育者という視点で、意見を傾聴するとともに、自分の考えを明確にした上で、意見を交換し、相互理解を図ることができる。 							④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	論文の構造を読み取り、研究の背景、研究課題、研究の目的、研究方法、結果および考察を類別できる。				課題レポート(1)	30%	
情報収集、分析力	論文の内容を簡潔に要約して説明することができる。 社会科・地理歴史科における実践研究の動向を分析できる。 模擬授業の指導案作成を通して、授業設計の向上に取り組むことができる。				受講者の発表 課題レポート(2) 課題レポート(3)	10% 15% 20%	
コミュニケーション力	論文の内容についてディスカッションできる。 授業理論の紹介や模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善についてディスカッションできる。				授業への参加度 授業への参加度	10% 15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート(1)については、発表資料における論文構造の理解の正しさなどを評価する(ポートフォリオで提出)。 ・課題レポート(2)については、授業理論の紹介内容の適切さ、具体性、わかりやすさから評価する(ポートフォリオで提出)。 ・課題レポート(3)については、指導案における理論適応の適切さから評価する(ポートフォリオで提出)。 ・受講者の発表は、説明の具体性や発表における工夫の有無などから評価する。発表内容に対しては、発表時に受講者でディスカッションされ、また担当教員からコメントが与えられる。 ・授業への参加度は、論文紹介、授業理論の紹介および模擬授業の振り返りにおけるディスカッションへの参加度合を評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、まず論文そのものの性質を知り、論文の解説方法について学ぶ。次に、受講者の興味・関心に関する論文の探し方について学び、実際に論文を探す。そして、論文を紹介し、その内容について議論する。さらに、社会科・地理歴史科における実践研究の動向を知り、模擬授業を実践してその改善効果を確認する。最後に、授業を効果的に行うために必要な身に付けるべき資質・能力について考え、教育実習までに修得すべき自身の課題を確認する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							

教科書：特に指定しない。

参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。

指定図書：戸田山和久（2012）：『論文の教室—レポートから卒論まで 新版』NHK 出版。

授業外における学修及び学生に期待すること

※本演習は、教職課程（社会または地理歴史）を履修し、教育者になるという強い意志をもち、真摯に社会科教育を追求しようとする学生を歓迎する。

※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	専門演習のすすめ方を理解し、目標を共有する。	予習：シラバスの通読 復習：前学期の省察の確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文の読み方	論文を輪読し、論文の構造について学ぶ。	予習：指定した論文の通読 復習：輪読した論文を読み返す
4	論文の探し方	各受講者の興味に関連する論文の探し方を学ぶ。	予習：興味・関心の整理 復習：検索した論文の確認
5	論文紹介の方法	論文紹介の方法を学び、担当およびスケジュールを決める。 論文紹介のための資料を作成する。	予習：検索した論文の一読 復習：論文紹介資料様式の確認
6	論文紹介 1	受講者の興味に関連する論文を紹介し、ディスカッションをする。	予習：配布資料の通読 【課題レポート】発表資料 復習：配布資料の再読とキーワードまとめ
7	論文紹介 2	受講者の興味に関連する論文を紹介し、ディスカッションをする。	予習：配布資料の通読 【課題レポート】発表資料 復習：配布資料の再読とキーワードまとめ
8	授業理論と授業改善 1	社会科の授業理論のキーワード紹介とディスカッションを通じて、社会科における実践研究の動向を知る。	予習：【課題レポート】授業理論の紹介資料 復習：配布資料の再読とキーワードまとめ
9	授業理論と授業改善 2	地理歴史科の授業理論のキーワード紹介とディスカッションを通じて、地理歴史科における実践研究の動向を知る。	予習：【課題レポート】授業理論の紹介資料 復習：配布資料の再読とキーワードまとめ
10	授業理論と授業改善 4	社会科の授業理論を取り入れた模擬授業（地理的分野）を実践し、その効果についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
11	授業理論と授業改善 4	社会科の授業理論を取り入れた模擬授業（歴史的分野）を実践し、その効果についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
12	授業理論と授業改善 5	社会科の授業理論を取り入れた模擬授業（公民的分野）を実践し、その効果についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
13	授業理論と授業改善 6	地理歴史科（地理）の授業理論を取り入れた模擬授業を実践し、その効果についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
14	授業理論と授業改善 7	地理歴史科（歴史）の授業理論を取り入れた模擬授業を実践し、その効果についてディスカッションする。	予習：模擬授業準備 【課題レポート】学習指導案の作成 復習：学習指導案の修正
15	まとめ	専門演習の成果を確認する。	予習：成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：国家資格『国内旅行業務取扱管理者』試験の「旅行業法」「約款」をマスターする。 国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指したゼミとする。 特に旅行業法、約款に力を入れる。国家試験は9月上旬							⑪ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	最終的な目標である国内旅行業務取扱管理者試験のうちの「旅行業法」と「約款」で60点以上取得できる。				模擬試験	30%	
情報収集、分析力	旅行業のみならず宿泊業、運輸交通業などかなり専門的な分野までその法規及び実務を理解する。				模擬試験	40%	
コミュニケーション力	旅行業及び関連業界への関心が高まり、かつ自らの旅行意欲が高まる。また、積極的にゼミ以外でも仲間とともに自主的な勉強会ができる。さらに下級生の指導ができる。				グループディスカッション	20%	
協働・課題解決力	旅行業としてやってはいけない行為は何かが判断できる。旅行者のニーズに応えた旅行業の在り方を旅行業法と共に考えることができる。				グループディスカッション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
学生が持ち回りで講師を務め、担当部分の課題を準備し、講義する。その際に、出された質疑に対する解答をする。また、模擬試験を3回受験する。							
授業の概要							
内容としては、1年次から開講されている「旅行業法・約款」の授業で学習したものである。 本専門演習では国内旅行業務取扱管理者試験の合格をめざし、問題を解きながら学生主体で進めていく。 形式としては勉強会を考えてほしい。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所 指定図書：『旅行業実務シリーズ1 旅行業法及びこれに基づく命令』 JTB 総合研究所 『旅行業実務シリーズ2 旅行業約款 運送・宿泊約款』 JTB 総合研究所							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。 単位を既に取得していても、「旅行業法・約款」の授業には出席して欲しい。また、週2回の特別講座に出来るだけ出席すること。夏休みには模擬試験3回および4日間の集中ゼミを行なうので参加すること。模試費用は5,500円。 なお、国家試験を受験しない者には特段の理由がない限り、単位を出さないで注意してください。 ※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	前期の進め方を説明する。 前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
2	省察、個人目標の設定	前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	ループリック入力
3	旅行業法	法の目的、旅行業の定義 登録制度、登録拒否、登録変更	旅行業法 第1～6条の予習、復習
4	旅行業法	営業保証金制度、旅行業務取扱管理者	第7～12条の予習、復習
5	旅行業法	料金揭示、旅行業約款、取引条件説明、書面交付	第12条の該当箇所の予習、復習
6	旅行業法	外務員、広告	第12条の該当箇所の予習、復習
7	旅行業法	標識、企画旅行の措置、旅程管理業務	第12条の該当箇所の予習、復習
8	旅行業法	禁止行為、代理業	第13～15条の予習、復習
9	旅行業法	業務改善命令、旅行業協会	第18条～該当箇所の予習、復習
10	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第1条から第10条	旅行業約款 募集型企画旅行の部 第1～10条の予習、復習
11	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第13条から第19条	第13～19条の予習、復習
12	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第21条から第26条	第21～26条の予習、復習
13	旅行業約款	募集型企画旅行の部 第27条から第30条	第27～30条の予習、復習
14	旅行業約款	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部	受注型企画旅行の部、手配旅行契約の部、旅行相談の部の予習、復習
15	旅行業約款	運送約款、宿泊約款	運送約款、宿泊約款の予習、復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
本演習では、地場産業の歴史を調査することにより、地域への理解を深める。また、共同研究を通じて、コミュニケーション能力を向上させる。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	産業集積について理解し、地場産業の一例を説明することができる。				発表① 発表②	15% 15%	
情報収集、分析力	新聞記事や企業のホームページなどから佐世保市周辺の地場産業の歴史に関する必要な情報を収集し、わかりやすくまとめることができる。				発表① レポート	25% 25%	
コミュニケーション力	議論や課題の実践が円滑に進むよう積極的に発言・活動することができる。				授業態度・貢献度	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の発表および課題レポートの形式については、授業内で指示する。 ・2回のレポートの提出を求める。(ポートフォリオにて提出) ・授業態度・参加については、議論やグループワークへの参加度合を評価する。 ・フィードバックは、授業内にて行う。 							
授業の概要							
<p>テーマ：地場産業の歴史について学ぶ</p> <p>本演習では、産業集積について学び、佐世保地域周辺の地場産業の歴史について調査する。まず専門領域の基礎的知識を学び、次に事例について検討する。事例研究では、各自が関心のある産業や企業の歴史について調査を行い、調査結果をまとめ報告する(発表①)。</p> <p>また、指定する課題(地場産業の歴史)についてグループで調査を行い、その調査結果を発表する(発表②)。最後に、本演習のまとめとして議論を行い、各自レポートを作成し提出する(レポート)。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。</p> <p>参考書：伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、加護野忠男(1999)『「競争優位」のシステム-事業戦略の静かな革命-』PHP研究所。その他、必要に応じて授業中に紹介する。必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

- ・議論や課題の実践には主体的かつ積極的に取り組んでほしい。
 - ・本演習を選択する者はどのコースに所属してもよい。
- 「長期インターンシップ」または「インターンシップ A/B」の履修を推奨する。
パソコンの利用環境を整えておくこと。(ノートパソコンが望ましい)

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う。	予習：配布資料の精読
2	省察	前学期の省察を行い、目標の達成度の確認、本学期以降の目標設定を行う。	予習：本学期の目標設定を行う
3	基礎学習 (1)	産業集積に関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
4	基礎学習 (2)	産業集積に関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
5	基礎学習 (3)	産業集積に関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
6	事例研究 (1)	関心のある産業や企業について、調査を行う。	復習：配布資料の精読
7	事例研究 (2)	関心のある産業や企業について、調査を行う。	予習：資料収集 復習：発表準備
8	事例研究 (3)	調査結果を発表する。(発表①) 調査結果について議論を行う。	予習：発表準備 復習：議論内容をまとめる
9	事例研究 (4)	調査結果を発表する。(発表①) 調査結果について議論を行う。	予習：発表準備 復習：議論内容をまとめる
10	共同研究 (1)	課題(地場産業の歴史)について説明を行う。 課題の実践について議論を行い、計画書を作成する。	復習：計画書の作成
11	共同研究 (2)	計画書に基づき、調査を行う。	予習：計画書の作成 復習：課題実践の準備
12	共同研究 (3)	調査結果を報告し、議論を行う。 計画を再度見直し、修正する。	復習：指定課題の実践についてまとめる
13	共同研究 (4)	計画書に沿って調査を行う。	復習：発表準備
14	共同研究 (5)	調査結果について発表する。(発表②)	予習：課題の実践についてまとめたものを発表資料にする
15	まとめ	事例研究および共同研究で得た結果について議論を行い、本演習の学習を振り返る。	復習：レポートの作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	年・期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、総合旅行業務取扱管理者試験（以下、「総合」と表記）への合格を目指して、海外旅行実務、国際航空運賃の計算、旅行英語を中心に進めていく。合わせて国際社会に対応できるよう国・地域の幅広い知識を身に付けることも同時に目指している。「総合」の範囲は膨大なので、学生自らの自発的な学びが必要である。							①⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 海外観光資源、国際航空運賃の計算方法を把握し、海外旅行実務の基礎的な流れを理解することができる。 世界の国・地域の地理・歴史を把握し、出入国手続、国際航空、ホテル等海外旅行実務の基礎的な流れを理解することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 確認テスト 	20% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 海外旅行実務に必要な知識を深め、外国との比較といった視点から、日本の特質や地域の課題を理解することができる。 データを分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できるようにする。 				<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表 	20% 30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視点から、国や地域の問題点や課題について日本語、英語で議論することができる。 				<ul style="list-style-type: none"> ゼミでのディスカッション 	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力					<ul style="list-style-type: none"> 演習でのディスカッション 確認テスト 		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 課題に対応したプレゼン資料を各自が準備し、ゼミで発表する。 確認テストによって理解度を測定する。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、日本人の海外旅行マーケット、海外旅行実務知識、英語で書かれた海外旅行に関する文章について理解しながら、国際社会と国・地域間の人の移動である国際観光と海外旅行の基礎的な知識を学んでいきます。国や地域の概略を理解した上で、実際の海外旅行業務の上で留意すべき点、身に付けるべき知識を徹底的に学びます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：『海外観光資源』『海外旅行実務』『出入国法令と実務』『国際航空運賃・料金』、(株) JTB 総合研究所 参考書： 指定図書：『ヨーロッパ鉄道旅行の魅力』、著者：野田隆、平凡社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「総合」の合格を目指して進めるため、国内旅行業務取扱管理者試験（以下、「国内」）科目合格以上の学生が優先となります。「国内」の対策は行いません。本演習を選択する学生はどのコースを履修してもかまいませんが、特別な事情のない限り、「旅行業務取扱管理者養成課程」であり、試験対策補講や模擬試験も同時に受講することが条件となります。併せて「海外旅行実務Ⅰ」「海外旅行実務Ⅱ」「旅行業論」を履修すること、プレゼン等に用いるためパソコンの環境を整えて下さい。また、インターンシップまたは長期インターンシップの参加を推奨します。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミの運営方法について確認する。毎回の学習範囲と事前に準備する資料について確認する。	予習：総合の試験を把握 復習：各自の課題設定
2	前期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、これまでの履修科目の成績等から前年度の省察を行い、前期の目標設定について確定する。	予習：既習の関連科目の省察と目標設定の作成 復習：前期目標と計画作成
3	世界の国・地域	世界の国・地域についての基礎的な知識を身に付ける。それぞれの国・地域のうち、日本からの観光客が多い主要国を正確に覚える。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：世界地図の予習 復習：世界の国・地域について復習
4	時差の理解	時差についての基礎的な知識を身に付ける。地域間の把握、航空機での所要時間の計算について理解する。国・地域の英語名を覚える。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：時差計算について 復習：地域間の時差、航空機の所要時間について
5	世界の歴史と現代社会	世界史について概観し、現在の社会で問題となっている地域への理解を深める。外務省の海外安全ホームページの内容の読み方を学ぶ。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、航空関連の英文読解を行う。	予習：世界のできごとの把握 復習：国際紛争の背景
6	航空の知識①	世界の航空会社と世界の主たる空港について学ぶ。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：空港発着情報をみる 復習：航空会社と国際空港について
7	航空の知識②	日本に発着している世界の航空会社の航空運賃と等級や主たる航空機の種類と機内配置図等について学ぶ。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：JALとANAの国際線のwebサイトをみる 復習：航空会社と国際空港について
8	国際航空運賃表の理解	国際航空時刻表の具体的な見方を復習し、合わせて4, 5回目で学んだ航空会社のコード、空港コードを読みこなす。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：2, 3レターの学習 復習：国際航空時刻表の見方について
9	列車時刻表の理解	「ヨーロッパ鉄道時刻表」の時刻表の見方を習得し、世界の列車について、各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、鉄道関連の英文読解を行う。	予習：ユーレイルを調べる 復習：ヨーロッパ鉄道時刻表の見方、記号について
10	ホテルの知識	ホテルの種類とその特徴。ホテルの等級、客室タイプなど、各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、ホテル関連の英文読解を行う。	予習：世界のホテルを調べる 復習：等級、客室タイプ、料金を復習
11	国境と出入国手続	国境の概念と旅券の基礎的な知識を身に付ける。出入国法令とその内容、税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確に理解する。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：CIQについて学習する 復習：出入国手続や旅券について理解する。
12	感染症、査証	SARS や BSE などの感染症、予防注射や査証についての理解を深め、これらが必要となる国・地域についての理解を深める。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：感染症の用語の理解 復習：感染症、予防接種、査証について
13	税関手続きと税金①	税関手続、特に旅行者の免税の計算方法について正確に理解する。各自が作成したプレゼン資料内容を発表し、補足と理解テストを行う。	予習：免税範囲を調べる 復習：免税の計算方法について
14	国際社会と観光について	パンフレットから学んだ海外旅行に関する知識について各自がプレゼンテーションを行い、国際観光について学生相互に議論する。	予習：プレゼン資料準備 復習：海外旅行実務の復習
15	まとめ	前期に学んだ内容について、海外旅行実務の受験科目に合わせた復習を行う。弱点部分は夏休み中の強化に向けて把握しておく。	海外旅行実務、出入国手続実務について復習する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本ゼミでは、「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」で学習した「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識をもとに、学生たちが主体となってディスカッションやグループワークを行いながら、スポーツイベントを企画・実施できるようになることを目指す。実践の場として、「チャレンジスポーツ」の指導や「スポーツフェスタ」の広報から企画運営まで、スポーツイベントに主体的に取り組み学修することをねらいとしている。							④、⑤、⑥、 ⑦、⑩、⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成	15% 20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、スポーツイベントの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・課題レポート	15% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。							
授業の概要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツマネジメント論』吉田良治 昭和堂							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向きボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい スポーツツーリズム、観光マネジメント、グローバルツーリズム							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	ゼミのテーマと進め方についてのオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	総合型地域スポーツクラブの誕生	総合型地域スポーツクラブ育成の背景と現状について	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
3	総合型地域スポーツクラブの誕生	自治体のリーダーシップによる「スポーツクラブ 21 ひょうご」のモデル事例	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
4	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 130年余の歴史を誇る我が国の総合型地域スポーツクラブのパイオニア	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
5	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 自発的に立ち上がった団地型の総合型地域スポーツクラブ	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
6	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 企業施設と一体となったクラブ経営	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
7	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 震災からの復活にも寄与した地域住民のネットワーク	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
8	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) クラブのあり方を変えたクラブハウス	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
9	スポーツイベントの広報について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の広報のやり方について学修する。	スポーツイベントの広報についてインターネットから調べてくる。
10	スポーツイベントの企画について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の企画の作り方について学修する。	イベントの企画方法について参考資料を3つ調べてくる。
11	スポーツイベントの運営について	「チャレンジスポーツ」や「スポーツフェスタ」の運営方法について学修する。	他のスポーツイベントが行っている運営方法について調べてくる。
12	スポーツイベントの事例研究（子ども対象）	子ども対象のスポーツイベントについて研究する。	子ども対象のスポーツイベントを企画してくる。
13	スポーツイベントの事例研究（女性対象）	女性対象のスポーツイベントについて研究する。	女性対象のスポーツイベントを企画してくる。
14	スポーツイベントの事例研究（高齢者対象）	高齢者対象のスポーツイベントについて研究する。	高齢者対象のスポーツイベントを企画してくる。
15	中間的評価と反省	前期のゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	これまで作成した資料を見直してくる。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習のねらいは、日本語教育に必要な言語知識を習得するとともに、それらを分かりやすく説明する力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。日本語を音声、語彙、文法の各方面から理解し、同時に説明力を身につけましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な言語知識を身につける。				発表資料 レポート	30%	
情報収集、分析力	教科書を読み理解した上で、分かりやすく説明できる。				発表	50%	
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。				ディスカッション	15%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して発表資料を作ることができる				発表準備	5%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分が担当する箇所の発表で50%、発表資料・レポートで30%、発表後のディスカッションへの参加度で15%、発表準備の状況で5%を評価します。発表内容やレポートは授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授業の概要							
毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の方はコメント・質問し、全員でディスカッションします。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：姫野伴子ほか『日本語教育学入門』, 2015 参考書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』, 2016							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教育に必要な言語知識を体系的に学びたいと考えている人を対象にします。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方、発表の方法について説明。 「日本語はどんな言語か」を理解する	復習：配布プリントを読む
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	音声と音声学	日本語の音声と音声学について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 2-8 を読み、練習問題を解いておく。
4	単音	日本語の母音や子音について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 9-19 を読み、練習問題を解いておく。
5	音素	特殊拍音素、音と表記の対応などについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 20-28 を読み、練習問題を解いておく。
6	環境や時代による音変化	同化や歴史的音変化などについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 29-37 を読み、練習問題を解いておく。
7	音のまとまりとリズム	音節、モーラ、リズムなどについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 38-45 を読み、練習問題を解いておく。
8	アクセント	アクセントの規則、機能、型などについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 46-53 を読み、練習問題を解いておく。
9	イントネーション・プロミネンス・ポーズ	イントネーションなどについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 54-61 を読み、練習問題を解いておく。
10	学習者の音声と発音指導	日本語学習者の音声に見られる特徴や指導法について考える。担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 62-69 を読み、練習問題を解いておく。
11	語と語構成	語の単位や構成について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 72-81 を読み、練習問題を解いておく。
12	文字	文字と音の関係、漢字について考える。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 83-90 を読み、練習問題を解いておく。
13	語種と位相	語種や位相、文体について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 91-96 を読み、練習問題を解いておく。
14	語の意味	語の意味について考え、比喩について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp. 97-104 を読み、練習問題を解いておく。
15	まとめ	これまでの学習項目についてまとめる他、色々なコーパスと活用法を紹介する。	興味をもったテーマについてレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅱ A (CF301)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
この演習では、日本語教員として必要な言語学的知識を身につけることを主眼に置きます。授業は学生の発表と討論を中心に進めます。教わるのではなく、自分が教える立場に立つことで、理解力・説明力を養います。日本語教育の基礎をしっかりと学んでいきましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な知識を身につける。				毎時間の課題	30%	
情報収集、分析力	多くの例を収集し、そこから規則を発見できる。				発表資料	50%	
コミュニケーション力	他人の発表に対して意見を述べることができる。				討論	15%	
協働・課題解決力	メンバーと協力して発表ができる。				発表	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料で50%、毎時間の課題で30%、発表後の討論への参加度で15%、発表で5%を評価します。発表内容および課題に関しては、授業中に、討論または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授業の概要							
教科書を素材として、日本語の構造を把握したうえで、理解した内容を発表してもらいます。教員による解説ではなく、学生の発表を中心とした授業です。発表後には討論を行います。発表者以外の人は、授業前に該当箇所をよく読みこみ、積極的に質問やコメントをしてください。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育1』アスク、2004 参考書：授業中に指示する 指定図書：名古屋大学日本語研究会 GA6『ふしぎ発見！日本語文法。』三弥井書店、2006							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、将来日本語教員になりたいと思っている学生、日本語の体系を本格的に勉強したいと思っている人を対象としたゼミです。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分の担当箇所を発表できる日本語レベルが必要です。発表者は、教科書以外の本も参考にして、しっかりと理解した上で発表してください。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	授業の進め方と発表の方法について説明する。 発表箇所の役割分担を行う。	自分の担当箇所のテキストを読み、内容を把握する (復習)
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	語順から見た日本語 日本語の類型	日本語を世界の言語の中において、日本語の特徴を探る。	pp.8-12 を読んでおく (予習)
4	日本語の特性	様々な角度から、日本語の特性を考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.13-22 を読み、練習問題を解いておく(予習)
5	日本語の音	日本語の音声に関する基礎知識を学ぶ。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.24-30 を読み、練習問題を解いておく(予習)
6	母音・子音・半母音	母音・子音・半母音について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.31-37 を読み、練習問題を解いておく(予習)
7	音素・アクセント・イントネーション	「音素」の概念を理解する。アクセント・イントネーションについて考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.37-44 を読み、練習問題を解いておく(予習)
8	日本語教育文法と国文法 品詞分類	日本語教育の文法と国文法の違いを理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.46-52 を読み、練習問題を解いておく(予習)
9	動詞の活用	動詞の活用の基礎知識を学ぶ。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.53-59 を読み、練習問題を解いておく(予習)
10	テンス・アスペクト・ムード	テンス・アスペクト・ムードの概念についてについて理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.60-63 を読んでおく(予習)
11	名詞文・主語と主題	コピュラ概念について理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.64-68 を読み、練習問題を解いておく(予習)
12	こそあど・形容詞	こそあどと形容詞の基礎知識を学ぶ。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.69-76 を読み、練習問題を解いておく(予習)
13	希望・欲求の表現 表現意図	希望・欲求の表現、表現意図について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.77-79 を読み、練習問題を解いておく(予習)
14	存在文 自動詞と他動詞	存在文・自他動詞の基礎知識を学ぶ。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.80-84 を読み、練習問題を解いておく(予習)
15	まとめ	授業全体のまとめ・討論	興味を持った問題についてレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIA (CF 301)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。							①⑤⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
情報収集、 分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分です。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	最古の村落の出現（2）	初期農耕牧畜社会の出現と拡散2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
3	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
15	古代インダス文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、近年日本語教育で重要視されている「やさしい日本語」の考え方や、コミュニティ心理学における接触仮説などを軸に、日本人と、留学生や外国人観光客とのコミュニケーションの問題について検討し、両者が気持ちを通わせるための具体的な方法を探ります。また、学期の後半には、「やさしい日本語」を用いて商店などの「接客マニュアル」を変換する活動を行い、よりよい多文化共生社会について考える機会を持ちます。							①②⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	やさしい日本語や多文化共生論に関する知識を身に付け、地域社会で活用し、貢献できるようになる。				発表資料	20%	
情報収集、分析力	フィールドワークや文献から得た情報をもとに、自分の言葉で説明したり意見を述べたりできる。				発表	40%	
コミュニケーション力	相手を思いやったり、日本語レベルを調整したりしながら、自分の考えを述べることができる。				ディスカッション	10%	
協働・課題解決力	グループワークをとおして、国際交流イベントを企画し、準備および実施することができる。				自己相互評価	10%	
多様性理解力	自分が育った文化と他社の文化について違いを理解し、文化の違いによる人や生活の多様性について説明することができる。				レポート	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表を 40%、発表資料・レポートを各 20%、ディスカッションへの参加度を 10%、発表と企画の準備を 10%で評価します。尚、課題の提示は、ポートフォリオで提示および回収し、個別にフィードバックを行います。							
授業の概要							
外国人観光客へのやさしい日本語による接客や、部活およびサークル内で日本人と留学生とが打ち解け合うための方法などについて考え、意見やアイデアを出し合う。加えて、商店などの接客マニュアルを「やさしい日本語」に変換し、データを提供先に寄贈する。授業は、教員による解説はなく、学生の発表や、グループワークを中心として進める。学生の皆さんには積極的に質問やコメントをして頂きたい。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書 : 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』(2012) スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』(2012) スリーエーネットワーク 指定図書 : 庵功雄・イオンスク・森篤嗣 編 (2013) 『「やさしい日本語」は何を目指すか-多文化共生社会を実現するために-』ココ出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教員養成課程を履修し、ゼミで身につけた知識や技術を、将来、教師として教壇に立った際に役立たせることに関心を持つ学生に適した内容となっています。留学生が受講を希望する場合は、授業内容を理解してレジュメを作成し、発表やディスカッションをとりまとめることのできる日本語力が必要です。同時に、商業施設や公的機関の接客マニュアルを理解し、それを「やさしい日本語」に変換できるだけの日本語力 (N1 以上) が求められます。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方と発表の方法について 発表の担当箇所を決める 「やさしい日本語」とは 柳川市での「やさしい日本語」ツーリズムの事例	予習) 海外の人との日本語による交流経験について話す準備をしておく。
2	先学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、先学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習) 先学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習) 本学期的目標設定の清書
3	「やさしい日本語」の歴史 1	日本語の制約	予習) p15-p26 を熟読し、意見を考えておく
4	「やさしい日本語」の歴史 2	これからの課題	予習) p26-p30 を熟読し、意見を考えておく
5	「やさしい日本語」による情報提供 1	ニュースのやさしい日本語の書き換え規則(語彙、文法)	予習) p31-p41 を熟読し、意見を考えておく
6	「やさしい日本語」による情報提供 2	ニュースのやさしい日本語の書き換え規則(発言の引用、文脈)	予習) p41-p46 を熟読し、意見を考えておく
7	「やさしい日本語」による情報提供 3	Web サービスの特徴、日々の運用とそれを支えるシステム	予習) p47-57 を熟読し、意見を考えておく
8	「やさしい日本語」で作る地域社会 1	多文化共生の地域社会 日本語能力格差と「やさしい日本語」	予習) p59-p70 を熟読し、意見を考えておく
9	「やさしい日本語」を使った企画の実施 1	商店などの「接客マニュアル」を「やさしい日本語」に変換する企画について、検討する	予習) 企画案を考える
10	「やさしい日本語」を使った企画の立案と実施 2	企画内容(目的、対象、場所など)と実施の手順を発表する	予習) 企画内容を考える
11	「やさしい日本語」を使った企画の立案と実施 3	接客マニュアルを「やさしい日本語」に変換する	予習) 案内の内容と方法を考える
12	「やさしい日本語」で作る地域社会 2	「やさしい日本語」の普及と教育	予習) p70-p77 を熟読し、意見を考えておく
13	「やさしい日本語」を使った企画の立案と実施 4	変換した接客マニュアルについて発表し、グループワークで内容を検討する	予習) 「やさしい日本語」の話し方を練習する 復習) リフレクションシートに記入する
14	「やさしい日本語」を使った企画の立案と実施 5	企画実施の振り返り レポート作成について	予習) レポートのテーマと構成を考える
15	振り返り	授業全体のまとめ、振り返り	興味を持った問題についてレポートを作成する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅠA・ⅠBの流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「身体」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関する問いを人文科学的に考察できる。体育スポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				研究発表や実践の展開内容	30%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				研究発表の展開内容	50%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				研究発表や実践後の議論内容	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション（研究発表）では各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメが作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。 ・プレゼンテーション（実技指導）では、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。 ・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする哲学的スタンスである。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』『高等学校学習指導要領解説 保健体育』</p> <p>参考書：『各県教員採用試験過去問題集 保健体育』『教員採用試験参考書 保健体育』</p> <p>『教員採用試験ステップアップ問題集』</p> <p>指定図書：『月刊 体育科教育』『現代スポーツ評論』『新版 論文の教室』（戸田山 和久：2012）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「体育」「スポーツ」「身体」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、教員採用試験、現場実践につながります。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前学期の省察と研究テーマの再構成	予習：前学期の省察と本学期的目標設定を下書き 復習：本学期的目標設定を清書
2	「論文」という伝え方Ⅰ	論文は感想文やレポートと何が違うのか	・指定図書『新版 論文の教室』を通読
3	レジュメの作成Ⅲ	主張の抽出と思考の言語化Ⅲ	・各自関心のあるキーワードで体育・スポーツ学系の論文を検索し通覧
4	指導案の作成Ⅲ	授業計画と種目の教材化Ⅲ	・学習指導要領を通読
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲を予習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an introduction to research skills in English. Working in stages, students learn basic technical, academic and communication skills necessary for researching a topic. Specifically, students will learn about how to find information, how to summarize, and how to use sources to clearly write about a topic.							4, 5, 7
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will write a correctly formatted research paper			Report		10%	
情報収集、分析力	Students will be able to collect and organize information from sources			Assignments		50%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience			In-class engagement		10%	
	Students will write a short research paper based on a topic provided to them			Report		30%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10% Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50% Report (Complete a short research paper which uses sources to address a given topic) 40%							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書：Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> • Introduce the course and review the syllabus • Students learn about each other • What is research? Previous experience 	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> • <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email 	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> • Conference with seminar teacher about personal goals for the semester 	Students meet with teacher about rubric
4	Finding sources	<ul style="list-style-type: none"> • What is a source? • High vs low quality sources • What is plagiarism? 	Students prepare sources about their topic
5	Evaluating sources	<ul style="list-style-type: none"> • Evaluating students' sources • Further information about plagiarism 	Students find further sources based on teacher feedback
6	Library tools for sources	<ul style="list-style-type: none"> • Visit the library to investigate tools for investigating sources 	Students find one research journal source and bring it to the next class
7	Using sources 1	<ul style="list-style-type: none"> • Note taking skills for sources 	Students take notes on sources and bring to the next class
8	Using sources 2	<ul style="list-style-type: none"> • Summarizing information • Paraphrasing information • In-text citations 	Students write one sentence / paragraph summaries of their sources
9	Using sources 3	<ul style="list-style-type: none"> • Students receive feedback about their writing and improve • In-text citations and references section 	Students improve their summaries for next class
10	Format of research papers	<ul style="list-style-type: none"> • Understanding research topics and basic formats for research papers • Students organize their notes into a coherent outline 	Make an outline which answers the topic question
11	Draft paper first half	<ul style="list-style-type: none"> • Workshop on the first half of students' research paper 	Write the first half of the paper
12	Draft paper second half	<ul style="list-style-type: none"> • Workshop on the second half of students' research paper 	Improve first half. Write the second half of the paper.
13	Final paper formatting	<ul style="list-style-type: none"> • Best practices for formatting academic papers 	Improve the second half. Adjust formatting.
14	Mini-presentation	<ul style="list-style-type: none"> • Students present and discuss the topic of their papers 	Give presentation about topic and discuss.
15	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> • Students receive feedback on their final papers 	Receive feedback about paper. Make final changes.

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
さまざまな地域課題についての課題と各地域の共通点について理解します。そのうえで市場や旅行業・観光業の成り立ちを学び、地域課題の解決につながる様々な事業展開の事例研究を通して、交流人口および定住人口拡大のための事業テーマ研究を行います。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業及び観光業の成り立ちを理解する。 ・地域課題解決のための事例研究を通して、その背景と効果について考察することができる。 ・情報発信について商品流通やデジタルマーケティングなどの様々な手法について理解することができる。 				企画書作成 (ポートフォリオ)	30%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 ・課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。 				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
企画書は様式や見やすさに加え、独自性と表現力、実行可能性の観点から評価します。また企画やプレゼンテーションの出来不出来だけではなく、普段からの議論への参加度も勘案します。講義への参加貢献度は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。							
授業の概要							
担当講師および外部講師の講義による旅行業・観光業の成り立ちと地域課題の事例の背景を理解し、グループ（または個人）で取り組むのテーマについて具体的な企画フレームと実現可能なプランを作成します。また、事業案の発信のための旅行商品の流通やデジタルマーケティングについての実践的な知識の習得を目指します。最終的には事業化案としてレポート作成および発表を行います。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：「幸せの仕事術」小山薫堂（NHK 出版）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略および目標設定	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
3	旅行業務の基礎知識習得	事業の成り立ちについて(業務内容、事業パートナー)	(予習) 各旅行会社のHPを確認する。
4	旅行業務の基礎知識習得	法人営業の市場について	(予習) MICE、教育旅行について調べる。
5	旅行業務の基礎知識習得	ソリューション営業・企画提案営業について	(予習) 「テーマのある旅」などの旅行パンフを探してくる。
6	地域課題についての基礎知識習得	日本における地域課題の背景理解	(予習) 自分の町の課題についてまとめてくる。
7	地域課題についての基礎知識習得	実際の地域課題についての具体的な事例	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	地域課題についての基礎知識習得	自治体やDMOの観光における役割について	(予習) 地元の自治体の観光HPを確認する。
9	レポートテーマ検討	これまでの予備学習についてのレポート発表とテーマ設定。	(予習) これまでの学習内容をレポートにまとめ、自分のテーマを設定。
10	テーマ別グループ編成	グループでテーマの絞り込みと研究課題について討議。各グループのテーマについて発表。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	企画テーマの内容や方向性を確認	(予習) テーマの論点を洗い出す。
12	グループワーク	企画案の内容確認・精査	(予習) 調査ポイントの確認
13	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションを作成	(予習) 調査分野での論点を確認。
14	レポート発表	グループ別プレゼンテーションと討議	(予習) 発表準備
15	まとめ	意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の調査と収集 博物館及び地域文化資源に関するフィールドワークを行い、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「収集」「調査研究」機能について学び、実際の収集・記録活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の収集・記録の方法を身に着けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				研究成果レポート	40%	
コミュニケーション力	フィールドワークおよびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	20%	
協働・課題解決力	地域文化資源について関心を抱き、調査・研究を行う中でゼミ生との協調性を養い、協働して課題解決に取り組むことができる。また、ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。				プレゼンテーション研究発表	10%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は、フィールドワークへの参加を中心とし、それに至るまでのグループワーク、現地調査への取り組み・態度を総合的に判断する。 ・事後学習の一環として、フィールドワークで得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。 							
授業の概要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における資料収集および記録の目的・意義を確認 2. フィールドワークのテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析、および文献調査成果に関するプレゼンテーションの実施 4. フィールドワークの実施（5月下旬～6月中旬に1日実施。踏査を基本とし、地域文化資源の搜索と収集、記録作業を行う。） 5. 収集した地域文化資源の記録作成（調書・文化財マップ等） 6. フィールドワークを基とした研究レポートの執筆および研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を実施 ※旅費は実費負担とする。なおフィールドワークは、日帰りできる範囲で行う。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：使用しない 参考書：授業中に指示する 指定図書：青木豊編『人文系博物館資料論』雄山閣							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である収集および調査能力を習得するものであり、フィールドワークを通じて実務能力だけでなく地域文化資源を判断する洞察力を養ってほしい。そのためには、普段から身の回りの自然や史跡等にも注意を払い、些細なことにも疑問をもってそれを解決する意識を涵養してほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：フィールドワーク予定地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	事前学習①	ゼミ内でグループワークを行い、フィールドワーク実施地を選定する。 併せて、フィールドワーク予定地に関する文献調査を行い、各個で調査内容を明確化する。 具体的には、歴史的環境・地理的環境などの各分野を割り振り、文献調査を基に後日発表する。	予習：フィールドワーク調査方法の考案、図書館の使い方を再確認 復習：必要に応じて文献調査を再度実施
4	事前学習②	文献調査の成果をまとめ、プレゼンテーション用の資料（パワーポイント、配布資料）を作成する。	予習：調査した文献の確認 復習：発表用資料（PPT）、配布資料の完成
5	事前学習③	文献調査の成果をゼミ内で共有するため、プレゼンテーションを実施。	予習：発表練習 復習：発表内容、発表方法の振り返り
6	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の発表内容の再確認 復習：準備事項の確認
7	フィールドワーク	5月下旬～6月中旬に、日帰り地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
8	整理作業①	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
9	整理作業②	フィールドワークで得た成果を記録し、活用できるようにする整理作業を継続して行う。	予習：調査成果の再確認 復習：作業結果の記録
10	レポート作成①	フィールドワークを踏まえて研究レポートのテーマを決定し、レポートを作成する。	予習：レポートのテーマを考案 復習：レポート作成
11	レポート作成②	レポートを作成し、完成する。 発表の準備を行う。	予習：レポート作成 復習：発表の準備
12	研究発表①	一人15分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映 【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
13	研究発表②	発表後、指摘事項を踏まえレポートを修正し、ポートフォリオを通じて提出する。	
14	レポートの添削指導	提出されたレポートについて面談・指導し、添削を基に修正する。	予習：レポートの振り返り 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出し、前期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA (CF301)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
これまで学んできたスポーツ科学についての基礎知識を振り返り、プレゼンテーションなどを通じて他者と知識、情報および意見を共有・交換する。また、スポーツ科学の観点を基に、これまでの自分自身の競技・スポーツ経験について振り返り、自分史としてまとめ、これからのキャリアについて考える。さらに、得た知識等を今後の自分自身の競技・スポーツの取り組みへと応用する手法について学ぶ。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	スポーツ科学に関する基礎知識を理解することができる。スポーツ科学で用いられる研究手法や測定・評価方法を理解することができる。				レポート		20 %
情報収集、分析力	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について、スポーツ科学の観点から情報を収集し、分析することができる。				レポート		30 %
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるすることができる。				プレゼンテーション ディスカッション		30 %
協働・課題解決力	スポーツ科学で用いられる研究手法や測定・評価方法の基礎知識を理解し、目的に応じて活用することができる。				レポート		20 %
多様性理解力	プレゼンテーションやディスカッションを通して、他者の意見や価値観に触れ、スポーツにおける多様性について考えることができる。				プレゼンテーション ディスカッション		10 %
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分史や研究計画書づくりなど授業内での取り組みにおいてレポートを作成する。レポートの出来栄（論理的に文章が書けているかなど）はもちろん、取り組み姿勢についても評価する。評価比率は全体の70%とする。なお、レポートの提出はポートフォリオを通じて行い、学生個々への評価のフィードバックを行う。また、プレゼンテーションやディスカッション（2～3回実施予定）において自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているか、また、他者の意見に対して理解するとともに柔軟かつ建設的に自分自身の意見に反映できているかについて評価する。なお、評価比率は全体の30%とする。							
授業の概要							
この授業ではスポーツ科学の基礎知識を文献や資料から学んでいく。また、得た知識はレポートやプレゼンテーションとして積極的にアウトプットする。この授業で重要となる取り組みは自分史と研究計画書づくりである。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社） スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法—トレーニング科学の活用テクニック—（大修館書店） 指定図書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。 ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要があることを理解しておいてください。 いずれの取り組みも自分だけで行うことはできません。他者と協力することを最重要視します。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	教員ならびに学生の自己紹介を行う。 専門演習の進め方についての説明を行う。	予習：自己紹介文の作成
2	前年度の省察と本年度の目標設定	前年度の大学での学びについて省察を行い、本年度の目標設定を行う。	予習：前年度の学習を振り返り
3	スポーツバイオメカニクスおよび測定評価の復習	2年次開講科目の「スポーツバイオメカニクス」ならびに「測定評価」の内容を振り返る。	復習：スポーツバイオメカニクスならびに測定評価のノート確認
4	専門競技の分析	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について調べる。	予習：専門競技に関する文献・資料の収集
5	専門競技の分析報告 (プレゼンテーション)	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目についてプレゼンテーションする。	予習：プレゼンテーションの準備
6	文献・資料の収集	書籍や研究論文等の文献・資料の収集方法について学び、1冊選出する。	予習：図書館の利用方法等について調べる
7	専門競技に関する先行研究レビュー①	精読した文献・資料のレビュー方法について学ぶ。	予習：文献・資料の精読
8	専門競技に関する先行研究レビュー②	自分自身が行っている、あるいは、興味を持っている競技種目について調べ、レビューを作成する。	予習・復習：文献・資料の精読
9	専門競技に関する先行研究プレゼンテーション	作成したレビューを基に専門競技に関する研究についてプレゼンテーションを行う。	予習：プレゼンテーションの準備
10	自分史づくり	専門競技に関する研究を基に、これまでの自分自身の競技・スポーツ経験について振り返り、自分史を作成する。	予習：自分自身の競技・スポーツ経験の振り返り
11	研究計画書の作成①	自分史を基に研究テーマおよび目的を設定する。 研究目的に沿った測定手法を検討する。	予習：専門競技に関する研究を調べる
12	研究計画書の作成②	研究目的に沿った測定手法を決定する。 測定実施に向けた段取りを検討する。	予習：専門競技に関する研究を調べる
13	測定実施に向けた準備①	測定実施に向けた予備実験を行う。 測定で得られたデータの取りまとめを行う。	復習：測定データの整理
14	測定実施に向けた準備②	測定実施に向けた予備実験を行う。 測定上の課題について討議し、研究計画書の見直しを行う。	復習：測定手法の見直し
15	まとめ	前期授業のまとめ 夏季休暇の課題の確認	復習：後期の取り組みに向けた準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡA(CF301)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、臨床心理・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を専門的に実施している競技に応用して考え、ディスカッションを通じて知識を深めることができるようにする。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツ指導者および現役のアスリートとして、運動・スポーツにおける心理的課題とその対処法についての基本知識を専門用語を用いて説明することができる。研究計画を立て、調査結果を分析することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	10% 10%	
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼンテーション資料 調査・実験レポート	30% 30%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、質疑応答に応じることができる。				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p> <p>調査・実験レポート：ゼミ内で行う調査・実験について専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、スポーツ心理学に関するテキストの輪読を通して、競技心理およびメンタルトレーニング技法を中心に学ぶ。各章の担当者を決定したのち、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行う。</p> <p>後半は、競技心理・メンタルトレーニングに関する実験・調査を計画し、調査・実験計画書の作成、データ収集、分析、レポートの作成を通してスポーツ心理学の研究方法を学ぶ。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）</p> <p>参考書：メンタルトレーニング・ワークブック（中込，1997）、心理学論文の書き方（松井，2006）</p> <p>指定図書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。

※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、ゼミの進め方、輪読担当箇所の決定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	スポーツ心理学の概要	競技心理・メンタルトレーニング	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
4	輪読（1）	競技心理（1）「競技スポーツアスリートの心性」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
5	輪読（2）	競技心理（2）「ピークパフォーマンス」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
6	輪読（3）	競技心理（3）「スランプ・バーンアウト」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
7	輪読（4）	メンタルトレーニング（1）「アスリートに求められる心理的スキル」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
8	輪読（5）	メンタルトレーニング（2）「リラクゼーション技法」	担当箇所の精読・要約・レジュメ作成
9	実験・調査計画（1）	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験を計画する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の計画書の作成
10	実験・調査計画（2）	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験を計画する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の計画書の作成
11	実験・調査	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験を実施する	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の結果の分析
12	実験・調査の分析	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験結果の分析	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験のレポート作成
13	実験・調査レポートの作成	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験の考察、レポートの作成	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験のレポート作成
14	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	調査内容およびデータ入力方法を確認
15	レポート発表	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験結果に関するレポートの発表・ディスカッション	競技心理・メンタルトレーニングに関する調査・実験のレポート作成、提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	池永 正人		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>テーマ：観光地の地域研究</p> <p>国内観光地の地域研究である。観光地の地域的特性・問題点・観光開発のあり方を、観察・聞き取り・資料収集などの調査方法を用いて明らかにする。これによって、卒業論文の作成技法を習得する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域調査の方法やレポートの書き方およびプレゼンテーションの技法を身につけることができる。				研究発表	25%	
情報収集、分析力	観光地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。				野外巡検	30%	
コミュニケーション力	地域調査の準備や調査結果の整理において、グループで意見を述べるることができる。				事前・事後学習	20%	
協働・課題解決力	地域の自然や歴史・文化の観光活用に関心を抱き、調査・研究に取り組むことができる。				事前・事後学習	5%	
多様性理解力	観光地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の幅広い知識を修得できる。				研究成果レポート	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は観光地域における野外調査である。 ・評価は、地域調査、研究発表、研究成果レポート、事前・事後学習を総合して行う。 							
授業の概要							
<p>演習の方法は、以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.研究地域の選定（目的・意義・場所・日程・方法など） 2.研究テーマ・内容の設定 3.地域調査（現地の視察、聞き取り、文献・資料収集など11月に1泊2日で実施） 4.調査結果の分析・整理 5.研究成果レポートの作成 6.研究発表会 <p>注）専門演習ⅡAと共通テーマのもとに調査・研究する。また、旅費は各自で実費を負担する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書・参考書・指定図書：研究地域が決定した後、巡検地に関連する文献を提示する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、卒業論文を作成するために本格的な地域研究手法を習得するものであり、観光地の地域調査に関心のある学生の受講を希望する。地域研究の手法を習得するためには、文献・資料や観察・聞き取り調査で得たデータを用いて事象を分析・考察しなければならない。観光地域に関する学術書を精読することを希望する。</p> <p>※本演習を選択する学生は、次のコースを履修することが望ましい。 観光マネジメント</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習の内容	過年度の実績と新年度の演習計画を理解する。	予習：シラバスを読む 復習：研究対象地域考案
2	後期（秋期）研究地域の選定 省察・個人目標の設定	観光調査の目的・場所・日程等について検討する。 前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定の面談を実施する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
3	地域調査の事前学習①	研究内容に関する文献・資料を輪読する。	予習：研究地の文献調べ 復習：文献を読む
4	地域調査の事前学習②	文献・資料を輪読する。	予習：文献を読む 復習：文献の要点整理
5	地域調査の事前学習③	市役所や観光協会等の観光関連機関での聞き取り内容について検討する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
6	地域調査の事前学習④	観光施設等の観察調査および聞き取り調査の調査票を作成する。	予習：調査項目の考案 復習：調査票の作成
7	地域調査の準備	観光調査の日程・調査票・持参品等の確認をする。	予習：調査内容の確認 復習：持参品等の準備
8	観光地域調査	紅葉の美しい11月に、1泊2日の日程で調査する。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成要領	研究成果レポートの作成要領を理解する。	予習：調査結果の整理 復習：調査結果の整理
10	収集文献・資料の分析	現地で収集した文献・資料を輪読し、内容を分析する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	レポート提出	研究成果レポートを提出する。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、ゼミ内で個別に口頭発表する。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	レポートの添削指導	添削されたレポートについて、個別指導を受ける。	予習：レポート内容確認 復習：レポートの修正
14	レポートの修正	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	後期（秋期）レポートの受理	修正した研究成果レポートを提出する。冬休みの宿題を与えられる。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	板垣 朝之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡAで実践したマクロ視野での観光の学びを、更に領域を広げて検証する。「観光立国」として、観光が日本の国策として取り上げられ経済や文化の多様な領域の中で語られ、注目されている現状を、専門演習ⅡAで身に付けた手法により検証し、より深い理解を得る事を目的とする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	観光立国日本が、今後どのように観光産業全般を育成して行くべきか、またその為に観光学科での学びをどう生かせるかについて自分の意見を述べる事が出来る。				・ 討論参画 ・ 意見の陳述	30%	
情報収集、分析力	新聞、マスコミ、WEB、SNS等の情報源を駆使して、自分の意見を裏付ける情報を収集し、自分の考えに沿って情報を取捨選択し、まとめる事が出来る。				・ レポート ・ 討議参画	50%	
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力	自分の所属しない社会の現象を知り、その現象の負って立つ背景を説明できる様になる。				・ レポート ・ 討議参画	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の意見を、口頭と文章の両方で表現できるか否かを重視する。答えが与えられるのを待つのではなく、自分はどう考えるという事をどれだけ表現できるかが重要である。15週の中で各学生がどのように考え、どのようにそれを表現したかを評価軸におくので、筆記試験は行わない。							
授業の概要							
観光を構成する要素を再検証し、観光立国日本の観光の今後のあり方を再確認する。学生が自分なりの解答を見つけて出す事を目標とした授業となる。学外調査や外部講師の予定等により授業振り替えが発生する可能性がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメ等は授業時に配布する。 指定図書：『観光白書/平成28年度版』観光庁（授業時に配布予定）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習のキーワードは、社会全般の事象に対する「好奇心」+「探求心」である。常に社会の神羅万象に好奇心を持って臨む事、情報収集に努める事、情報を取捨選択した上で自ら判断し、自分の意見を持ち、グループディスカッション等を通じて発表できる事が重要である。この授業での自分磨きが、将来自分自身の「教養」となって身について行く事を体験してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	全体の導入	IIAの結果を踏まえ、IIBでの方向性や各自の問題意識の持ち方等を確認する。	専門演習IIAでの目標達成度を自己評価しておく。
2	個人面談・省察	専門演習IIAでの成果を個人面談により省察し、到達目標の進捗状況確認や新たな目標設定を行う。	後期に向け新たな目標案を検討しておく。
3	観光と文化のあり方を考える(1)	観光と文化のあり方の基本的な考え方を理解する。	観光が文化に及ぼす影響に関し再確認する。
4	観光と文化のあり方を考える(2)	観光と文化の真正性との関わりについて理解する。	文化の真正性と観光による地域への貢献のあり方を再確認する。
5	文化の多様性と観光の魅力を考える(1)	宗教や人種といった要素が文化の発展と変遷にどの様に影響を及ぼすのかをヨーロッパを例として理解を深める。(第1回)	「文化」の概念に関して自分の理解をまとめておく。
6	文化の多様性と観光の魅力を考える(2)	宗教や人種といった要素が文化の発展と変遷にどの様に影響を及ぼすのかをヨーロッパを例として理解を深める。(第2回)	文化の具体的な形の変遷を再確認する。
7	文化の多様性と観光の魅力を考える(3)	「食文化」の多様性を学び、観光との連携やその可能性を考える。(第1回)	日本の食文化に関し、自分の意見をまとめておく。
8	文化の多様性と観光の魅力を考える(4)	「食文化」の多様性を学び、観光との連携やその可能性を考える。(第2回)	世界の食文化に関し、自分の意見をまとめておく。
9	地域文化の魅力を考える(1)	地域の文化とは何かについて考える。	自分が生まれ育った地域の特有の文化に関して検証しておく。
10	地域文化の魅力を考える(2)	地域文化による町おこしのあり方について、事例を基に理解を深める。	地域文化がどの様に町興しにつながられるのか、自分の意見をまとめておく。
11	地域文化の魅力を考える(3)	地域文化による町おこしはどの様に進められるのか、グループ討議により方向性を確認する。	討議により共有した事柄を再確認する。
12	観光と地域振興を考える(1)	地域振興の方法としてのイベントのあり方を考える。	地域振興と観光の関係を整理しておく。
13	観光と地域振興を考える(2)	イベントと地域振興について、MICEがどの様に地域振興に寄与できるのかを理解する。	MICEの意味を理解し、地域振興との関係を再確認する。
14	観光と地域振興を考える(3)	観光と地域振興の現状と問題点について自分の考察結果を発表し共有する。	発表準備をする。
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	井上 英也 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>本学の建学の理念にあるホスピタリティは、国際化、多様化、情報化が進む企業活動においても、人と人を結びつける重要な精神として広く取り入れられている。本演習は、ホスピタリティ産業の事例研究を通じて、“感じる力” “考える力” “表現・行動する力” を養い、将来の観光産業のリーダーに必要な素養を修得することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。</p>							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ホスピタリティ・マネージメントについて、企業の事例から具体的に説明することができる。				課題レポート	30%	
情報収集、分析力	新聞や雑誌あるいはウェブサイトに掲載されるホスピタリティ産業に関する最新の関連記事や情報を収集し、変化の兆候を探り、将来への考察をすることができる。				授業への積極姿勢	40%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力	ホテルなどホスピタリティ産業の視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢	5%	
多様性理解力	外国人旅行者が地域観光に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション	5%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 「課題レポート」は提出時期 (30%) 内容の論理性・独自性 (50%) 文章構成力・形式要件 (20%) で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する</p>							
授業の概要							
<p>ホスピタリティ・マネージメントを実践する企業について、人と人、人とモノ、人と社会、人と自然、それぞれのつながりの観点から事例研究を行う。企業研究の成果については、プレゼンテーションを通じて共有し、グループ討議において考察を深める。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「ワーク・シフト」リンダ・グラットン							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。 ②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。 ③「ホテル管理論」・「ホテルビジネス英語」・「Hotel Management」など関連の科目を履修し、理解を深める。 ④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。 ⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習ⅡAを総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	企業研究 1	企業情報の収集方法を修得し、会社情報、IR 情報などから企業分析の基礎を学ぶ。	(予習) 会社情報の収集をする
4	企業研究 2	個人あるいはグループで1社を選択し、企業分析を行う。	(復習) 企業分析を完了する
5	企業研究 3	各自あるいはグループの企業研究発表を行い、グループ討議により研究成果を共有する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
6	事例研究Ⅰ①	社員の意識調査において、満足度(エンゲージメント)指数が高い会社の事例研究を行い、“働きがい”について考察する。	(予習) 社員のエンゲージメントを調べる
7	事例研究Ⅰ②	①についての研究発表を行い、グループ討議により働きがいのある会社の条件を考察する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
8	事例研究Ⅱ①	顧客満足あるいは環境への意識が高い会社の事例研究を行い、社会で認められる会社の特徴を考える。	(予習) 顧客満足の高い会社を1社選択して調べる
9	事例研究Ⅱ②	①についての研究発表を行い、グループ討議により社会で認められる会社の条件を考察する。	(予習) プレゼンテーションを作成する
10	事例研究Ⅲ①	長崎県内企業を訪問し、課題を引き出す。	(復習) ヒアリングの結果をまとめる
11	事例研究Ⅲ②	①に対する分析を行い、改善案をまとめて発表する。グループ討議を行い、改善案の検証をする。	(予習) プレゼンテーションを作成する
12	訪問企業の研究①	現職の人事部長をゲストスピーカー(実務家)として招き、会社が求める人物像を明らかにする。	(復習) 会社が求める人物像をまとめる
13	訪問企業の研究②	就職活動で訪問を予定する複数の会社をリストアップし、企業研究を行う。また、自身のキャリアプランと企業の採用方針を確認した上で、志望動機をまとめる。	(復習) 志望動機をまとめる
14	訪問企業の研究③	①②で研究した企業に応じた模擬面接を実施する。	(予習) 面接の準備をおこなう
15	専門演習ⅠAのまとめ	学んだことをグループ毎にとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
博物館学的概念に立脚した博物館と地域文化資源について学ぶ。博物館学は幅広い分野の学問領域であり、調査や本演習を通じて卒業論文のテーマを決定し、論文作成の技法を習得し、プレゼンテーションを通して研究発表ができる技量を養う。							①⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	30%	
情報収集、分析力	博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				事前・事後学習	40%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	20%	
協働・課題解決力	フィールドワークの調査方法を身に付け、PPTを使用したプレゼンテーションができる。勉強会で積極的に発表ができる。				プレゼンテーション勉強会での発表	10%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
情報収集・分析力が40%、卒業研究に対する専門力が30%、フィールドワークでのコミュニケーション力が20%、その他プレゼンテーションなど10%で評価する。 ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 ・博物館の日程・調査方法などを検討する。 ・現地調査を1日以上実施する。 ・研究発表会を行う。 ・研究成果レポートの作成と提出。							
教科書・参考書							
参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。 また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。 ※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。 ※現地調査の旅費は実費。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	野外調査の事前学習①	野外調査地の場所・日程等について検討する。 野外調査の具体的内容と割振りをする。	予習：野外調査地予備調査 復習：今回の復習
4	野外調査の事前学習②	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
5	野外調査の事前学習③	各担当者の事前学習の発表。卒論テーマの決定。	予習：発表の準備 復習：発表の反省
6	野外地域文化資源調査	野外地域文化資源の調査をする。	予習：調査内容の確認 復習：調査結果の整理
7	レポート作成	調査をもとにレポートを作成する。	予習：レポート内容確認 復習：レポート執筆
8	文献資料の収集と分析	調査で収集した文献・資料を理解する。	予習：調査収集資料の確認 復習：調査結果の整理
9	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
10	レポート作成	レポートを作成する。	予習：レポート執筆 復習：レポート執筆
11	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：レポート執筆 復習：口頭発表の準備
12	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	研究発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	レポートの添削指導	添削されたレポートを修正する。	予習：レポートの修正 復習：レポートの修正
15	前期レポートの受理	後期のまとめとして、修正した研究成果レポートを提出する。	予習：レポート提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	熊谷 賢哉		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
前半では、高齢者の健康づくりに関するテキストの輪読を通して、高齢者の健康づくりを科学的な視点からサポートする方法について理解することを目的とする。後半では、前半にテキストを通して学んだ知識や、その他の授業等で学んできた知識と、これまでの経験を通して得た知識や抱いていた疑問等を関連づけて考えることで、卒業論文のテーマを決定していく。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法			評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> 平均値の差の検定や直線回帰分析といった簡単な統計手法について理解することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 課題レポート 			30%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活機能を増進する運動プログラムについて理解することができる。 演習で学んできた知識を活かし、卒業研究のテーマを明確化することができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼン用レジュメ プレゼン後のディスカッション 			20% 30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ディスカッションにおいて自分の意見を述べるができる。 			<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーション プレゼン後のディスカッション 			20%
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出席				受験要件			
合計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション(50%)については、前半のテキスト輪読では、テキストの担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションを行っているかを評価基準とする。また、後半の参考文献の紹介では、紹介する論文に記載されている内容を理解した上で、その内容を他のゼミ生に伝えられているかを評価基準とする。プレゼン用レジュメ(20%)については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする。課題レポート(30%)については、データの解析方法を理解した上で解析ができているかを評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>ゼミ前半は、高齢者の健康づくりに関するテキストを輪読していく(①担当箇所(担当者)の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前(ゼミ時間外)に準備するものとする。ゼミ後半は、各自が興味を持った分野の文献を順番でゼミの中で紹介していく(①文献検索、②紹介文献決定、③精読、④要約、⑤レジュメ作成、⑥報告、⑦ディスカッション)。なお、②～⑤の行程については、担当者が事前に準備するものとする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社</p> <p>指定図書：『地域における高齢者の健康づくりハンドブック』NAP社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							

本ゼミで行う内容に興味を持ち積極的に参加してほしい。そのためには、ゼミ時間外に、ゼミで行った内容について復習を通して理解すると共に、ゼミで行った内容の周辺領域の知識について予習する等の取り組みを行ってほしい。また、知識の修得や理解の以前に、“ヒト”としてではなく“人”として、そして大学生としての最低限のマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。メリハリ（学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ）を大切に！

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
2	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方について、輪読担当箇所の決定	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(1)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(1)の精読
3	輪読 (1)	生活機能を増進する運動プログラム(1)「健康教室開催のための知識と準備」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(2)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(2)の精読
4	輪読 (2)	生活機能を増進する運動プログラム(2)「運動開始のためのメディカルチェック」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(3)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(3)の精読
5	輪読 (3)	生活機能を増進する運動プログラム(3)「運動の安全基準」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(4)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(4)の精読
6	輪読 (4)	生活機能を増進する運動プログラム(4)「栄養と水分摂取」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(5)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(5)の精読
7	輪読 (5)	生活機能を増進する運動プログラム(5)「筋力増大のための運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(6)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(6)の精読
8	輪読 (6)	生活機能を増進する運動プログラム(6)「筋持久力増大のための運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(7)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(7)の精読
9	輪読 (7)	生活機能を増進する運動プログラム(7)「減量プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(8)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(8)の精読
10	輪読 (8)	生活機能を増進する運動プログラム(8)「施設での運動プログラム」	担当者：担当箇所（生活機能を規定する要因(9)の精読・要約・レジュメ作成） 担当者以外：生活機能を規定する要因(9)の精読
11	輪読 (9)	生活機能を増進する運動プログラム(9)「家庭での筋量・筋力増強プログラム」	生活機能を規定する要因(1)～(9)の復習
12	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマについて、担当順の決定	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
13	プレゼンテーション (1)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (1)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
14	プレゼンテーション (2)	担当者による参考文献の紹介およびディスカッション (2)	担当者：参考文献の検索・精読・要約・レジュメ作成 担当者以外：参考文献の検索
15	まとめ	卒業論文のテーマの報告およびディスカッション	卒業論文の題目作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする 後期においては、三川内焼と有田焼の比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようにする(2つの言語で)。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④ ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	25%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	35%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会演習への貢献度	10% 10%	
協働・課題解決力	①フィールドワークの際、2年生と一緒に調査を行うことができる。②学術発表の際、2年生を支援できる。				フィールドワーク・学術発表参加	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への貢献度	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴(毎回)、自他の文化の尊重(毎回)、フィールドワーク参加状況(実施時)、ゼミ内発表会(グループワーク)、期末レポートである。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題(マナバに出題):授業中、プレゼンテーション:当該授業時、期末レポート:提出締切後(個別に)							
授業の概要							
ゼミ生どうして協働し、各種資料の調査、レポートの作成ならびに報告する経験を積み重ねる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書:指定しない。 参考書:『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書:大橋康二(2004)海を渡った陶磁器. 吉川弘文館.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
(1) 開国祭での学術発表への参加を、必須とする。(2) ようこそ JAPAN 外国語コンテストへの出場または運営の支援が望ましい(必須ではない)。(3) 3コースの履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んできると。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	3年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	有田焼の調査 1	①学術発表のふりかえり。 ②有田焼の概要、③有田町へのアクセス、④卒論テーマの準備の指示、⑤就活準備(別途指示)	(予習) 配布された資料を読んできると。(復習) 調査結果を記録する。
8	有田焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の検討、②卒論テーマの準備、③就活準備(別途指示)	(予習) 調査対象の候補を選んでおく。(復習) 調査結果を記録する。
9	有田焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の選定、②行程の決定、③卒論テーマの準備、④就活準備(別途指示)	(予習) 自分が希望する調査対象を選んでおく。(復習) フィールドワークの準備
10	有田町フィールドワーク	フィールドワークの実施	(復習) フィールドワークの調査結果をマナバに記入する。
11	フィールドワークの振り返り 1	①フィールドワーク調査結果の共有、②卒論テーマの準備、③就活準備(別途指示)	(予習) マナバに記入された調査結果を読んできると。(復習) 他メンバーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワーク振り返り 2	①有田焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワーク振り返り 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット(A4版1ページ)にまとめる。 ③卒論テーマの準備、④就活準備(別途指示)	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション(3分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に必要な内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。 ・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。 ・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね理解することができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。 							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 470 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	35%	
情報収集、分析力	社会性のある問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	40%	
コミュニケーション力	(1)社会生活に必要なコミュニケーションのための知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	10%	
	(2)コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。 2. 14 回目に 30 分のテストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後はポートフォリオでフィードバックを行う。 3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。 							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『続 日本人の英語』マーク・ピーターセン(著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	古民家	古民家に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	いろり	いろりに関する表現、翻訳研究、TOEIC問題、ディスカッション	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	民芸品 1	民芸品に関する表現 1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル 2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	民芸品 2	民芸品に関する表現 2、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	お城	お城に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	武具	武具に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	観光地	観光地に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	道祖神	道祖神に関する表現、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル 2）、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	稲作 1	稲作に関する表現 1、TOEIC問題、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	稲作 2	稲作に関する表現 2、TOEIC問題テスト実施、翻訳研究、ディスカッション	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写
15	まとめ	休暇中の学びについて、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	安部 雅隆		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<ul style="list-style-type: none"> 企業の持つ特徴や課題を発見できる能力を養い、その企業がとるべき今後の戦略を立案する。 ケーススタディを通じて、将来働く上で直面する問題・課題に対し、適切に対処できる能力を身につける。 ディスカッションの進行役としてのスキルを身につける。具体的には個別の意見を上手く集約したり、議論が適切な方向へ進むように整理できるような能力を身につける。 							①⑤ ⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	実社会で起こり得る企業内の問題・課題に、どのような種類のものがあるかを理解できる。また個々の問題に対し、解決するための様々なアプローチ法を習得できる。				・課題レポート ・受講者のプレゼン	30%	
情報収集、分析力	将来就職した際に直面するであろう企業に内在する問題・課題を予め想定し、それを解決するためにいかなるアプローチが必要かを提言できる。				・課題レポート ・受講者のプレゼン	35%	
コミュニケーション力	収集した情報を簡潔にまとめ、プレゼンテーション用ソフトを用いて人前で発表することができる。進行役としてディスカッションを効果的に進めることができる。				・授業内の発言内容 ・受講者のプレゼン	20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力	『企業で働く』ということの重要性を認識でき、『企業で働く』上で起こり得る問題に対し関心が高まる。				・授業内の発言頻度	15%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> 最終回に受講者に対しプレゼンテーションおよび課題レポート提出を課す。課題レポートについては、理論的かつ独創的な思考を内包しているかを評価する。プレゼンテーションも同様だが加えて時間内で簡潔にまとめられているかについても評価の対象とする。課題レポートおよびプレゼンテーションの内容については授業内で指示をする。 ケーススタディを進めていく中で、個々の受講者につき1つのケースを担当してもらい、そのケースについてプレゼンテーションを行うとともに、かつディスカッションにおける進行役を担ってもらい、そのプレゼン内容や、進行役として適切だったか否かを対象とする。なお、本科目の受講学生数にもよるが、個々の学生は複数回この進行役を担うことになる。 授業態度・授業への参加については、発表の内容とディスカッションへの参加度合いを評価する。 							
授業の概要							
本演習ではケーススタディを通じて、経営学の知識を更に深化させていく。具体的には、各コマ担当学生がまずケース内容のプレゼンテーションを行い、それを基にケースに内在する問題について全員でディスカッションを実施する。この学修を通じて、企業で起こり得る問題・課題を想起でき、それを改善するための必要な知識・行動が修得できる。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書；専門演習Ⅰで使用した「1からの経営学」（中央経済社）を毎回持参すること。 参考書；「ゼミナール経営学入門」（日本経済新聞社） 指定図書；「入門経営学」（新世社）							

授業外における学修及び学生に期待すること

コースについては問わないが、下記のいずれかに該当する学生の履修を希望する。

- ・経営に興味を抱くもの
 - ・将来新規ビジネスを起業しようと考えているもの
 - ・店舗経営等に関心を寄せるもの
 - ・人前で話す力やプレゼンテーション能力の向上に努めたいもの
- また、全学共通科目の「経営学」を未履修の学生は3年次に履修することも本演習の受講条件とする。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	本演習の受講者の紹介や演習形式の説明、また円滑な運営を行っていく上でのルール等の説明を行う。	シラバスを読む 夏季休業前レポートを再度読む
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習；前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習；本学期的目標設定の清書
3	ケーススタディについて	『ケーススタディとはなにか?』その概念について理解する。	前期に実施したケーススタディを思い出し、再度ケーススタディの言葉の意味を調査
4	共同研究①	学園祭で発表する課題について議論する。	学園祭における事業計画を創案
5	ケーススタディ① 「フォードとGM」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
6	ケーススタディ② 「フォードとGM」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
7	ケーススタディ③ 「ヤマト運輸」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
8	ケーススタディ④ 「ヤマト運輸」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
9	ケーススタディ⑤ 「マクドナルドとモスバーガー」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
10	ケーススタディ⑥ 「マクドナルドとモスバーガー」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
11	ケーススタディ⑦ 「ライオン」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
12	ケーススタディ⑧ 「ライオン」	1つの企業に焦点を当て、それについてディスカッションを行う。	配布したケースを読む 担当者はプレゼン準備
13	研究発表①	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
14	研究発表②	担当者が発表し、それについて全員で議論する。	担当者はプレゼン準備
15	まとめ	これまでのまとめを行う。 また完成したケースレポートを提出する。	自作のケース提出

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ ラーニング の 類 型
本演習では、受講者が各自設定したテーマに関連するデータや新聞記事、報告書、資料を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら卒業研究の作成に向けた力の養成を図りたい。最終的には、受講者が自ら考察の視点を持ち、4年次の卒業研究に取組めるよう導きたい。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	テーマに関する基本的な事項を理解し、説明することができる。					発表と議論 レポート	10 % 20 %
情報収集、分析力	テーマに関する資料や情報を自ら収集し、指定された形式でレポートを作成することができる。 テーマに関するデータや論文などを的確に読み取ることができる。					発表と議論 レポート	20 % 40 %
コミュニケーション力	根拠となる資料を提示しながら自分の見解を述べ、他の受講者と議論することができる。					発表と議論	10 %
協働・課題解決力							%
多様性理解力							%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レポートを60%、発表と議論を40%の比率で評価する。レポートはレポート・ループリック等を用いて様式や文献引用ルール等の順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。また発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な議論を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席（特に担当日）は大幅に減点する。演習内で学生が作成したレポート（作成途中のものも含む）については、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。							
授 業 の 概 要							
本授業では、受講者が各自テーマを設定し、テーマに関わる情報を収集し、課題レポートの作成、発表、議論を行う。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。 参考書：授業中に適宜紹介する。 指定図書：松本茂・河野哲也『「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部（2007） 白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房（2013）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない回も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。また、議論には積極的に参加し、毎回必ず発言すること。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職課程を履修しているもの ・日本の時事問題に関して理解を深めたいもの ・子どもや教育の問題について関心のあるもの ・論理的な思考法や論理的な文章作成法を学びたいもの <p>※本演習の受講者には「教育学」の受講を勧める。また留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の論評会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) 議論を振り返る
5	問いを設定する①	本演習の課題レポートとして取り組むテーマを各自が大まかに設定し、テーマに関わる新聞記事について発表する。	予) レポートテーマの検討と新聞記事の収集 復) 議論の振り返り
6	問いを設定する②	レポートで調べていきたい具体的な問いを抽出する。	予) レポートの問いを考える 復) 作業の継続
7	レポート作成手法を修得する	レポートの構成、作成方法、調査手順を説明する。情報収集(文献・インターネット等)の方法を説明する。	予) レポートの作成方法を調べてくる 復) レポート作成方法の復習
8	基礎知識を修得する①	問いに関わる基本的事項を洗い出す。	予) レポート作成に必要な基本的事項を考える 復) 作業の継続と見直し
9	基礎知識を修得する②	問いに関わる基本的事項を調べ、整理する。	予) レポート作成に必要な基本的事項を調べる 復) 作業の継続と見直し
10	レポートを構成する	レポートの構成を考え、必要な資料やデータを考える。	予) レポートの構成を考える 復) 資料やデータの収集
11	情報を収集・分析・考察する①	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
12	情報を収集・分析・考察する②	問いに関わる資料やデータを収集・分析し、考察する。	予) 資料やデータの講読 復) 分析の継続
13	レポートを作成する②	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポート作成作業の継続
14	レポートを作成する③	レポート作成作業	予) レポートの作成 復) レポート作成作業の継続
15	発表・議論する①	レポートを発表し、発表内容について議論する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
放送用プロ機材を使った映像作成とFM放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。関連する資格取得を目指す。観光の情報発信の手段として調査やイベントの企画・実施等のソフト的な取り組みと、観光に関わる基礎的知識を有し、観光情報を取材という形式で自ら調べて、放送で発信する能力を取得する。まちづくりイベントを起案し実践する前年度は映像作成・佐世保市との協働によるイベント企画運営・地域イベントの実践などをおこなう。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	伝えたい情報を適切に判断し、正しく伝達することができる					課題提示に対する個人によるプレゼンテーション	20%
情報収集、分析力	情報機器の操作やネット関連の技術習得、情報コンテンツの作成ができる。観光情報の発信を通じて、メディアリテラシーを理解することができる					企画・番組内容	40%
コミュニケーション力	情報発信とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に意欲的に参加することができる。					授業態度・活動への参加度	30%
協働・課題解決力	積極的に話し合いをし、自分から働きかける力を身につけることができる。					課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	10%
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加度。ポートフォリオ・Webによる情報交換の活用度、グループディスカッションでの内容 まちづくり企画作成とプレゼン発表内容 イベントを通してまちづくりに関する活動への参加と報告書 地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。 企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。 まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：話すチカラをつくる本（知的生きかた文庫）三笠書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。 情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に係る人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	資格試験対策・面談	資格試験対策のポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	資格の調査分析
3	施設拠点の活用	中心市街地のコミュニティを活用に関する計画を考える	コミュニティに集まる人々を分析する
4	ポートフォリオ・Web 演習・面談	コミュニケーション用ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備
5	イベントデザイン準備	イベント実施のための調査・取材実践。計画書の作成	イベントテーマの決定
6	情報発信	まちづくりに関する活動の発信を实践	コンテンツを選び、発信準備をする
7	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	事例研究・分析
8	プレゼン作成とデータ管理	高度なツールを使った文書作成とグラフィックスの演習	アプリケーションの動作確認
9	プレゼンテーション	プレゼンテーションの实践と他者との評価	話し方・姿勢・内容を確認する
10	イベント制作・情報発信	イベント実施のための調査・取材実践。イベント企画書の作成	企画書の確認
11	SNS・Web オープンソース	SNS・Webの操作・管理、コンテンツ作成	指定サイトの参照
12	イベント企画確認	イベント企画を再確認、グループ同士で評価する	プレゼンデータの確認とポートフォリオへの提出
13	イベント実践準備	イベント企画の準備とタイムスケジュールの事前シミュレーションを行う	開始・終了、人員配置などの確認をする。
14	事前イベント企画発表	グループでの具体的なイベントを企画し発表する	作成原稿の確認と読み合わせ。事前確認・練習
15	イベント企画発表	具体的なイベントを企画し発表する (商品開発やまちづくりプランなど)	事前確認・練習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	小島 大輔		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本演習は、社会科・地理歴史科の指導法の基礎を習得し、模擬授業を繰り返し実施することで、学習指導要領に基づいた授業を効果的に行う実践力を身につけるために、以下の能力を涵養することをねらいとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科・地理歴史科教育に関する専門的知識・技能を修得し、現代の社会科・地理歴史科教育における様々な課題に適用して解決することができる。 ・社会科・地理歴史科教育に関する専門的知識を収集・分析することで、よりよい中学校・高等学校教諭になるための自己の成長などに役立てることができる。 ・グローバル社会における教育者という視点で、意見を傾聴するとともに、自分の考えを明確にした上で、意見を交換し、相互理解を図ることができる。 <p>また、本演習では、論文構成の理解および情報の整理作業を通じて、論理的な文章の組み立て方を学び、観光に関わる様々な問題を考え・判断する際に必要とされる論理的な考え方を身につける。</p>							④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	研究の背景、研究課題、研究の目的および関連データを適切に関連付けることができる。 一次データと二次データを類別できる。				課題レポート 課題レポート		25% 10%
情報収集、分析力	構想した論文の構成について具体的に説明することができる。 自身または本学の社会科・地理歴史科教育の課題を指摘できる。				受講者の発表 授業での取り組み		30% 10%
コミュニケーション力	論文の組み立て方について討議できる。 社会科・地理歴史科教育勉強会の企画・運営に参加できる。				授業への参加度 授業への参加度		15% 10%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポートについては、発表資料における論文構造の理解の正しさおよびデータ収集方法の適切さおよびその解釈の正しさなどを評価する（ポートフォリオで提出）。 ・受講者の発表は、説明の具体性や発表資料における工夫などから評価する。発表内容に対しては、発表時に受講者でディスカッションされ、また担当教員からコメントが与えられる。 ・授業での取り組みについては、指摘した事項の具体性、妥当性などから評価する（ポートフォリオで提出）。 ・授業への参加度は、受講者の発表に対する討論、勉強会の企画・運営への参加度合を評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、前半はこれまでの社会科・地理歴史科教育の学びにおける課題を整理し、勉強会を企画する。この勉強会の実施を通して、課題解決の成果などを再度ふりかえり、教育実習を直前に控えた自身の成長を確認する。</p> <p>続いて後半では、論文の構成を知り、論文の作成方法について学ぶ。次に、データの収集とその分析方法について学び、受講者の興味・関心に関する事項データを収集・分析する。そして、論文構想の方法を学び、受講者の構想した論文についてディスカッションする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。</p> <p>指定図書：戸田山和久（2012）：『論文の教室—レポートから卒論まで 新版』NHK 出版。</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

※本演習は、教職課程（社会または地理歴史）を履修し、教育者になるという強い意志をもち、真摯に社会科教育を追求しようとする学生を歓迎する。

※本演習選択者は、いずれのコースも履修してよい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	専門演習のすすめ方を理解し、目標を共有する。	予習：シラバスの通読 復習：興味・関心の整理
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	社会科・地理歴史科勉強会の企画1	前期に実施した社会科・地理歴史科勉強会のふりかえりから、自身および本学における社会科・地理歴史科教育の課題をディスカッションする。	予習：指定した課題の確認 復習：整理した課題の確認
4	社会科・地理歴史科勉強会の企画2	自身および本学における社会科・地理歴史科教育の課題解決の方法として勉強会を検討する。	予習：整理した課題に関する資料収集 復習：勉強会の事例収集
5	社会科・地理歴史科勉強会の企画3	自身および本学における社会科・地理歴史科教育の課題解決の方法として勉強会の企画・立案をする。	予習：勉強会のアイデア検討 復習：企画の実施可能性確認
6	社会科・地理歴史科勉強会の準備	企画した社会科・地理歴史科勉強会の依頼・手配などの準備を行う。	予習：自身の担当確認 復習：勉強会実施の最終確認
7	社会科・地理歴史科勉強会の実施	企画した社会科・地理歴史科勉強会を実施する。	予習：勉強会準備 復習：勉強会のふりかえり
8	社会科・地理歴史科勉強会の実施	企画した社会科・地理歴史科勉強会を実施する。	予習：勉強会準備 復習：勉強会のふりかえり
9	社会科・地理歴史科勉強会のふりかえり	企画した社会科・地理歴史科勉強会をふりかえり、課題解決の成果を確認する。	予習：課題の確認 復習：勉強会のふりかえり
10	論文の作成方法	論文の問題・課題設定、構成、文章表現について学ぶ。	予習：前期の発表資料確認 復習：論文の特徴の確認
11	データ収集の方法	一次データおよび二次データの類別・収集方法およびその分析方法を学ぶ。	予習：興味・関心の整理 復習：興味・関心のあるトピックについて関連データの所在確認
12	論文構想発表の方法	論文構想発表の方法、調査計画の立て方について学ぶ。	予習：データの収集 復習：データの分析
13	論文構想発表1	論文の構想発表を行い、ディスカッションする。	予習：【課題レポート】発表資料 復習：論文構想資料の修正
14	論文構想発表2	論文の構想発表を行い、ディスカッションする。	予習：【課題レポート】発表資料 復習：論文構想資料の修正
15	まとめ	専門演習の成果を確認する。	予習：成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
テーマ：「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。 1つの研究テーマを決定し、その研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものを学び、卒業研究に臨む準備を整える。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。				ディスカッション	30%	
情報収集、分析力	分野における先行研究を収集することができる。先行研究を解題することができる。				課題提出	40%	
コミュニケーション力	議論に積極的に参加し、貢献できる。				ディスカッション	20%	
協働・課題解決力	研究調査のテーマを設定でき、適切な研究手法を用いることができる。				プレゼンテーション	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題提出はワード文書とし、発表は、パワーポイント資料を用いて行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。</p> <p>課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等も評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等も評価する。ディスカッションにおいては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価する。</p>							
授業の概要							
<p>各自が研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：A・ブル（1998）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社 指定図書：A・ブル（1998）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースもしくは専修課程を履修することが望ましい。 観光マネジメント、グローバルツーリズム、スポーツツーリズム、旅行業務取扱管理者養成課程</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	ルーブリック入力
3	研究(1)研究テーマの設定	研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。先行研究を解題しまとめる。
4	研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	調査内容について案を作成する。
5	研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	調査計画を検討する。
7	研究(5)調査	フィールドワークを実施する。	調査計画を定める。
8	研究(6)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	研究(7) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	研究(8)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	研究(9)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	研究(10)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	研究(11)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	研究(12)研究発表	一連の研究をプレゼンテーションし、ディスカッションする。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	研究(13)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	谷口 佳菜子		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
自分の関心のある産業や企業について調査し、問題点を考察することにより、課題発見力を向上させる。また、個人研究を通じて、目的を設定し、計画的かつ主体的に取り組む力を養う。							⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	事業システムについて理解し、事業システムの一例を説明することができる。				レポート① レポート②	15% 15%	
情報収集、 分析力	文献や資料、その他インタビュー調査などから事業システムに関する必要な情報を収集し、わかりやすくまとめることができる。				レポート① レポート②	25% 25%	
コミュニケーション力	議論や課題の実践が円滑に進むよう積極的に発言・活動することができる。				授業態度・貢献度	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者の発表および課題レポートの形式については、授業内で指示する。 ・2回のレポートの提出を求める。(ポートフォリオにて提出) ・授業態度・参加については、議論やグループワークへの参加度合を評価する。 ・フィードバックは、授業内にて行う。 							
授業の概要							
<p>テーマ：関心のある産業や企業の事業システムを探り、その競争優位について考察する</p> <p>本演習では、長期に渡り存続し、成功を収めている産業や企業の事業の仕組みによる差別化について理解を深め、関心のある産業や企業の事業システムの調査を行う。まず専門領域の基礎的知識を学び、次に事例について検討する。事例研究では、各自が関心のある産業や企業の事業システムについて調査を行い、調査結果をレポート(レポート①)にまとめ報告する。</p> <p>また、指定する課題(関心のある産業や企業の事業システムを探る)について調査を行い、その調査結果を発表する。最後に本演習のまとめとして議論を行い、レポートを作成し提出する(レポート②)。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に定めない。</p> <p>参考書：伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、加護野忠男・井上達彦(2004)『事業システム戦略-事業の仕組みと競争優位』有斐閣、加護野忠男(1999)『「競争優位」のシステム-事業戦略の静かな革命-』PHP研究所。その他、必要に応じて授業中に紹介する。</p> <p>指定図書：伊丹敬之・加護野忠男(2003)『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社。</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

- ・議論や課題の実践には主体的かつ積極的に取り組んでほしい。
 - ・本演習を選択する者はどのコースに所属してもよい。
- 「長期インターンシップ」または「インターンシップ A/B」の履修を推奨する。
パソコンの利用環境を整えておくこと。(ノートパソコンが望ましい)

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	ゼミの進め方やテーマについてオリエンテーションを行う。	予習：配布資料の精読
2	省察	前学期の省察を行い、目標の達成度の確認、本学期以降の目標設定を行う。	予習：本学期の目標設定を行う
3	基礎学習 (1)	事業システムに関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
4	基礎学習 (2)	事業システムに関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
5	基礎学習 (3)	事業システムに関する文献や資料を読み、理解を深める。	予習：専門用語の理解 復習：配布資料の精読
6	事例研究 (1)	関心のある企業について、調査を行う。	復習：配布資料の精読
7	事例研究 (2)	関心のある企業について、調査を行う。	予習：資料収集 復習：発表準備、レポート①の作成
8	事例研究 (3)	まとめた調査結果を発表する。 調査結果について議論を行う。	予習：発表準備 復習：レポート①の作成、 議論内容をまとめる
9	事例研究 (4)	まとめた調査結果を発表する。 調査結果について議論を行う。	予習：発表準備 復習：レポート①の作成、 議論内容をまとめる
10	個人研究 (1)	課題（関心のある産業や企業の事業システムを探る） について説明を行う。 課題の実践について議論を行い、計画書を作成する。	復習：計画書の作成
11	個人研究 (2)	計画書に基づき、調査を行う。	予習：計画書の作成 復習：課題実践の準備
12	個人研究 (3)	調査結果を報告し、議論を行う。 計画を再度見直し、修正する。	復習：指定課題の実践についてまとめる
13	個人研究 (4)	計画書に沿って調査を行う。	復習：指定課題の実践についてまとめる
14	個人研究 (5)	調査結果について発表する。	予習：課題の実践について まとめたものを発表資料にする
15	まとめ	事例研究および個人研究で得た結果について議論を行い、本演習の学習を振り返る。	復習：レポート②の作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	三浦 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、海外観光資源の特徴を把握した上で、地域の資源を活かした着地型観光や訪日観光といった、近年関心の高まっている新しい観光について考える。地域創生、観光立国計画、近隣諸国の観光政策について学び、特定の地域を域外に紹介するプログラムを作成する。そのためのフィールドワークを行い、前後でそのための準備や共同研究（作業）をおこなう。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい観光のビジネスモデル、及び地域の観光計画を理解できる。 ・観光資源の発見、資源の応用のプロセスとその組織の運営、計画の推進方法を説明できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・復習テスト 	20% 10%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業務の内容、観光立国基本計画、近隣諸国の観光政策の概略を理解できる。 ・論理的な展開を組み立て、独自性を出せる文章を作成できる。 				<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション ・課題レポート 	20% 30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの準備や調査で積極的な参加ができる。 				ディスカッション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業法や観光政策については復習テストを行い、理解度を確認する。フィールドワークに向けて地域についての基礎的な資料の収集、計画を立てた上でフィールドワークを実施し、その地域を紹介するプログラムを作成する。 ・調査や文献を元に論文を作成し、その内容を評価する。授業態度・授業への参加・受講者の発表については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。 							
授業の概要							
<p>本演習では、まず旅行業法・約款、日本の観光政策を学んだ上で、着地型観光を軸とした地域の観光、インバウンドツーリズムについて研究します。開始からの3回は、総合旅行業務取扱管理者試験対策を行います。フィールドワークを行う地域を選定し、地域の観光を担う団体・組織等とも連携し、観光地計画（ルートやプログラムなどの整備）、プロモーション方法などについて学びます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。共同研究に向けて国内・海外の事例に関する資料を随時配布します。</p> <p>参考書：</p> <p>指定図書：『地域のカー食・農・まちづくり』、著者：大江正章、岩波新書</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>地域を売り出す「着地型旅行商品」は、旅行業法などの法律の理解、地域にある観光資源の発見と磨き上げ、商品としての組み立て、総合的なマーケティング、ブランディング、地域内での組織や運営体制、販売先へのセールスなど、クリアすべきハードルがたくさんあります。本演習では国際観光への理解を深めながら、地域の観光計画を考えていきます。積極的にチャレンジできる学生を歓迎します。なお、本演習を選択する者は、どのコースを履修してもかまいません。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	国際観光と世界の観光資源	国際観光と世界の観光資源について総合的な復習を行い、前期に学んだ海外旅行実務について国家試験に備える。	総合旅行業務取扱管理者試験の過去問題を解く
2	後期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、これまでの履修科目の成績等から前期察を行い、後期目標設定について確定する。	予習：既習の関連科目の省察と目標設定の作成 復習：後期目標と計画作成
3	国際観光と日本の観光政策	国際観光と日本の観光政策についての概略について講義を行い、関連した法律や施策について理解する。	国際観光と日本の観光政策について復習する。
4	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、これまでの履修科目の成績等から前年度の省察を行い、前期の目標設定について確定する。	予習：既習の関連科目の省察と目標設定の作成 復習：前期目標と計画作成
5	観光立国計画と近隣諸国の観光政策の検討	観光立国基本計画について学び、地域の観光計画でどのように実践されているか、近隣諸国の観光政策がどのように推進されているかについて理解を深める。	観光立国計画と近隣諸国の観光政策について復習する。
6	旅行業と観光協会の業務と地域における観光振興の課題	旅行業が従来行ってきた旅行商品と旅行業法の関連と、旅行業を取得した観光協会の業務について、比較しながら理解を深める。地域における観光振興と着地型観光について考える。	旅行業法と着地型観光について復習する。
7	地域の観光計画と観光推進	地域が売り出そうとしている観光の内容について、事例を中心に学んでいく。課題を克服するためにどのようなことが必要かについて検討する。	地域の観光計画と観光推進について復習する。
8	共同研究 (フィールドワーク①)	フィールドワーク先の事前資料を収集し、地域で取り組んでいる具体的な計画とその推進状況や課題を検討し、調査計画を作成する	インターネットや観光協会から当該地域の資料を入手する。計画を再検討する。
9	共同研究 (フィールドワーク②)	フィールドワークを実施し、事前計画に基づき調査を実施する。聞き取りや撮影などによって収集したデータを記録し、観光関連の地域の方々の意見交換を行う。	地元の方のお話を積極的に聞く。五感をつかって調査地をみる。
10	特定の地域における課題設定と論文作成①	これまで学んだことを元に、各自が特定の地域を選び、そこでの観光にかかわる課題からトピックスを選び、課題解決の仮説を立て、各自が論文としてまとめる。	論文のテーマ、仮説の設定、実証方法について学ぶ。
11	特定の地域における課題設定と論文作成②	地域が売り出そうとしている観光の内容について、事例を中心に学んでいく。課題を克服するためにどのようなことが必要かについて検討する。	先行研究を調べる、課題の抽出、課題解決の方法について論理的にまとめる。
12	共同研究 (プログラム立案①)	提案プログラムを販売するターゲットについて検討する。特に訪日観光のマーケットを意識して意見交換を行う。	複数のターゲット候補を立て、グループで討論して決めていく。
13	共同研究 (プログラム立案①)	提案プログラムを販売するターゲットについて検討する。特に訪日観光のマーケットを意識して意見交換を行う。	複数のターゲット候補を立て、グループで討論して決めていく。
14	共同研究 (プログラム立案②)	プログラムを作成する。日程、交通手段、観光の内容、食事、宿泊場所などフィールドワークを参考に実現可能な内容にする。	交通手段や宿泊場所などの料金等も考慮して考える。
15	共同研究 (プログラム立案④)	完成したプログラムのプレゼンを行う。全体の観光地計画や実施計画とのすりあわせを行う。	

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	宮良 俊行		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本ゼミでは、「専門演習ⅠA」、「専門演習ⅠB」で学習した「総合型地域スポーツクラブ」の基礎知識をもとに、学生たちが主体となってディスカッションやグループワークを行いながら、スポーツイベントを企画・実施できるようになることを目指す。実践の場として、「チャレンジスポーツ」の指導や「スポーツフェスタ」の広報から企画運営まで、スポーツイベントに主体的に取り組み学修することをねらいとしている。							④、⑤、⑥、 ⑦、⑩、⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	総合型地域スポーツクラブのことを説明することができる。また、スポーツイベントの運営を補助することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成	15% 20%	
情報収集、分析力						%	
コミュニケーション力						%	
協働・課題解決力	地域のスポーツイベントにボランティアとして活動することができる。また、地域スポーツの課題・問題点を発見し指摘することができる。				・受講者の発表 ・企画書、発表資料の作成 ・課題レポート	15% 20% 30%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
課題レポートについては、理論的かつ実践的な内容をもつように書くことができたかを評価する。また、文字数不足および誤字・脱字は、減点の対象とする。授業態度・授業への参加については、発表の内容と討論への参加度合を評価する。ポートフォリオで課題レポートのフィードバックを行うので確認すること。							
授業の概要							
年間を通して、「総合型地域スポーツクラブ」に関する資料を購読し、基礎知識を習得し、問題意識を高めていく。また、グループワークを通して、全員で議論ができるようになることを目指す。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：『地域を変えた 総合型地域スポーツクラブ』山口 泰雄 大修館書店 参考書：授業の中で指示する。 指定図書：『スポーツマネジメント論』吉田良治 昭和堂							
授業外における学修及び学生に期待すること							
各地域で活動している総合型地域スポーツクラブに出向きボランティア活動を積極的に実施し、社会貢献して欲しい。また、指定された教科書を事前に読んでおくこと。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修することが望ましい スポーツツーリズム、観光マネジメント、グローバルツーリズム							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	後期の導入	後期の具体的事例の研究についてオリエンテーションを行う。	先行文献を調べ、レジюмеを作成する。
2	スポーツイベント企画準備①	スポーツイベント企画書作成を学習する。	前回のレジюмеを熟読してくる。今回使用する資料を熟読してくる。
3	スポーツイベント企画準備②	スポーツイベント運営の段取りを学習する。	前回の資料を復習する。今回使用する資料を熟読してくる。
4	スポーツイベント企画準備③	スポーツイベントの広報作成を行う。	前回の資料を復習する。スポーツイベントのチラシ作成案を作ってくる。
5	スポーツイベント企画準備④	スポーツイベントの開会式、閉会式のリハーサルを行う。	スポーツイベントの開会式、閉会式のシミュレーションしてくる。
6	スポーツイベント企画準備⑤	スポーツイベントのプログラムに関するリハーサルを行う。	スポーツイベントのプログラムをシミュレーションしてくる。
7	スポーツイベント企画準備⑥	スポーツイベント企画・運営の反省会を実施する。	イベントの反省をまとめてくる。
8	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例)他のクラブで実践されているスポーツイベントについて比較し、研究する。	他のクラブで実施されているスポーツイベントを調べてくる。
9	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例) 幼児期の運動について研究し、クラブプログラムを作成する。	幼児期の運動に関する文献を調べてくる。
10	総合型地域スポーツクラブ事例研究	事例)クラブ運営に関するイベントの効果について検証する。	クラブ運営に関するイベントの効果について文献を持ってくる。
11	卒業論文作成準備①	卒業論文の書き方を学習する。	前回のレジюмеを熟読してくる。今回使用する資料を熟読してくる。
12	卒業論文作成準備②	卒業論文の書き方を修得する。	前回の資料を復習する。今回使用する資料を熟読してくる。
13	卒業論文作成準備③	卒業論文の仮テーマを決定する。	前回の資料を復習する。卒業論文の仮テーマを決めてくる。
14	卒業論文作成準備④	卒業論文の作成計画書を作成する。	前回の資料を復習する。卒業論文の作成計画書の作成準備を行う。
15	まとめ	年間を通じたゼミ活動を振り返り、その成果を確認する。	前回のレジюмеを熟読してくる。先行文献を調べ、レジюмеを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習のねらいは、日本語教育に必要な言語知識を習得するとともに、それらを分かりやすく説明する力を養うことです。そのため、授業は履修者による発表を中心に進めます。日本語を音声、語彙、文法の各方面から理解し、同時に説明力を身につけましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な言語知識を身につける。				発表資料 レポート	30%	
情報収集、分析力	教科書を読み理解した上で、分かりやすく説明できる。				発表	50%	
コミュニケーション力	発表した内容に対し、質問やコメントができる。				ディスカッション	15%	
協働・課題解決力	グループメンバーと協力して発表資料を作ることができる				発表準備	5%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分が担当する箇所の発表で50%、発表資料・レポートで30%、発表後のディスカッションへの参加度で15%、発表準備の状況で5%を評価します。発表内容やレポートは授業中または個別にコメントしフィードバックします。							
授業の概要							
毎回の授業の予習として、教科書の各テーマについてよく読んでください。発表者は担当箇所のテーマの資料を作成して説明し、発表者以外の方はコメント・質問し、全員でディスカッションします。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：姫野伴子ほか『日本語教育学入門』, 2015 参考書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』, 2016							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教育に必要な言語知識を体系的に学びたいと考えている人を対象にします。留学生は、教科書の内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。発表者は担当箇所をしっかりと理解し、よく準備をした上で発表にのぞんでください。発表者以外の方もしっかりと該当箇所を読みこみ、質問などの準備をして授業にのぞんでください。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	授業の進め方、発表の方法について説明。	
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	品詞とオノマトペ	日本語の品詞とオノマトペについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.107-114 を読み、練習問題を解いておく。
4	第二言語の語彙知識と知識の測定	語彙知識の測定方法について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.115-124 を読み、練習問題を解いておく。
5	第二言語の語彙習得過程と心内辞書	語彙の学習ストラテジーなどについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.125-132 を読み、練習問題を解いておく。
6	語と文	文法や文の種類について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.136-144 を読み、練習問題を解いておく。
7	格と主題	格助詞と主題について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.145-153 を読み、練習問題を解いておく。
8	活用	動詞、形容詞、形容動詞の活用について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.154-161 を読み、練習問題を解いておく。
9	テンス・アスペクト	主節と従属節のテンス、アスペクトについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.163-171 を読み、練習問題を解いておく。
10	ヴォイス	動詞の自他と受身や使役について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.172-180 を読み、練習問題を解いておく。
11	方向性と恩恵	授受表現について理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.181-189 を読み、練習問題を解いておく。
12	モダリティ	対事モダリティ、対人モダリティ、関連付けのモダリティなどについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.190-198 を読み、練習問題を解いておく。
13	待遇表現とポライトネス	敬語やポライトネスについて理解する。 担当者が発表し、全員でディスカッションする。	予習：教科書 pp.199-207 を読み、練習問題を解いておく。
14	方言と共通語	方言と共通語について、全員でディスカッションする。	予習：配布プリントを読み、問題について考えておく。
15	まとめ	これまでの学習項目について振り返る。	興味をもったテーマについてレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
この演習では、日本語教員として必要な言語学的知識を身につけることを主眼に置きます。授業は学生の発表と討論を中心に進めます。教わるのではなく、自分が教える立場に立つことで、理解力・説明力を養います。日本語教育の基礎をしっかりと学んでいきましょう。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	日本語教育に必要な知識を身につける。				毎時間の課題	30%	
情報収集、分析力	多くの例を収集し、そこから規則を発見できる。				発表資料	50%	
コミュニケーション力	他人の発表に対して意見を述べることができる。				討論	15%	
協働・課題解決力	メンバーと協力して発表ができる。				発表	5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料で50%、毎時間の課題で30%、発表後の討論への参加度で15%、発表で5%を評価します。発表内容および課題に関しては、授業中に、討論または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授業の概要							
教科書を素材として、日本語の構造を把握したうえで、理解した内容を発表してもらいます。教員による解説ではなく、学生の発表を中心とした授業です。発表後には討論を行います。発表者以外の人は、授業前に該当箇所をよく読みこみ、積極的に質問やコメントをしてください。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育1』アスク、2004 参考書：授業中に指示する 指定図書：名古屋大学日本語研究会 GA6『ふしぎ発見！日本語文法。』三弥井書店、2006							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、将来日本語教員になりたいと思っている学生、日本語の体系を本格的に勉強したいと思っている人を対象としたゼミです。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分の担当箇所を発表できる日本語レベルが必要です。発表者は、教科書以外の本も参考にして、しっかりと理解した上で発表してください。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	導入	授業の進め方と発表の方法について説明する。 発表箇所の役割分担を行う。	自分の担当箇所のテキストを読み、内容を把握する (復習)
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	「ている」の用法 可能表現	「ている」の用法を整理する。可能表現について考察する。	pp.85-87 を読んでおく (予習)
4	使役表現・受身表現	使役・受身表現について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.88-92 を読み、練習問題を解いておく(予習)
5	授受表現	授受表現の種類と文法を理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.93-96 を読んでおく (予習)
6	「は」と「が」	「は」と「が」の用法について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.102-110 を読んでおく (予習)
7	「を」「に」「で」の用法	「を」「に」「で」の用法について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.111-116 を読み、練習問題を解いておく(予習)
8	現代仮名遣い 外来語の表記	現代仮名遣い、外来語の表記のルールを理解する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.133-141 を読み、練習問題を解いておく(予習)
9	ローマ字・記号	ローマ字と記号の用法を学ぶ。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.142-148 を読んでおく (予習)
10	語種・語構成	語種と語構成について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.162-168 を読み、練習問題を解いておく(予習)
11	語彙の体系・位相	語彙の体系について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.169-175 を読み、練習問題を解いておく(予習)
12	敬語	敬語の体系について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.181-187 を読み、練習問題を解いておく(予習)
13	方言と共通語	方言と共通語について考察する。 担当者が発表・全員で討論を行う。	pp.188-190 を読み、練習問題を解いておく(予習)
14	コミュニケーション	コミュニケーションのストラテジーや言語接触について学ぶ。 全員で討論を行う。	pp.191-204 を読み、練習問題を解いておく(予習)
15	まとめ	授業全体のまとめ・討論	興味を持った問題についてレポート作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIB (CF 302)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	25%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	30%	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の70%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
<p>本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心をもち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	東地中海文明（2）	エーゲ海文明 2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
3	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス2世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル3世、サルゴン2、エサルハドン、アッシュールバニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	柴田 あづさ		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、近年日本語教育で重要視されている「やさしい日本語」の考え方や、コミュニティ心理学における接触仮説などを軸に、日本人と、留学生や外国人観光客とのコミュニケーションの問題について検討します。そして、両者が気持ちを通わせるための具体的な方法を探ります。また、学期の後半には、日本人学生と留学生との交流企画を実施し、異文化間交流の意義について考える機会を持ちます。							①②⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	やさしい日本語や多文化共生論に関する知識を身に付ける。				発表資料	20%	
情報収集、分析力	フィールドワークや文献から得た情報をもとに、自分の言葉で説明したり意見を述べたりできる。				発表	40%	
コミュニケーション力	相手を思いやったり、日本語レベルを調整したりしながら、自分の考えを述べるができる。				ディスカッション	10%	
協働・課題解決力	メンバーと協力して、発表資料を作ったり、企画の準備をしたりすることができる。				自己相互評価	10%	
多様性理解力	自分が育った文化と他社の文化について違いを理解し、文化の違いによる人や生活の多様性について説明することができる。				課題の提出	20%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表を 40%、発表資料・課題の提出を各 20%、ディスカッションへの参加度を 10%、発表と企画の準備を 10%で評価します。尚、課題の提示は、ポートフォリオで提示および回収し、個別にフィードバックを行います。							
授業の概要							
<p>文献講読をとおして、外国人観光客へのやさしい日本語による接客や、サークル内で日本人と留学生とが打ち解け合うための方法などについて考え、意見やアイデアを出し合う。授業は、教員による解説はなく、学生の発表や、グループワークを中心として進める。学生の皆さんには積極的に質問やコメントをして頂きたい。</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版 本冊』（2012）スリーエーネットワーク 指定図書：藤本忠明・東正訓編著（2009）『ワークショップ大学生生活の心理学』ナカニシヤ出版 加賀美常美代編著（2013）『多文化共生論-多様性理解のためのヒントとレッスン-』明石書店</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、日本語教員養成課程を履修し、ゼミで身につけた知識や技術を、将来、教師として教壇に立った際に役立たせることに関心を持つ学生に適した内容となっています。留学生が受講を希望する場合は、授業内容を理解してレジュメを作成し、発表やディスカッションをとりまとめることのできる日本語力が必要です。同時に、国際交流の企画案を作成したり、案内のちらしやホームページを作成できるだけの日本語力（N1 以上）が求められます。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方と発表の方法について 発表の担当箇所を決める	予習) 前学期の振り返りと 本学期の目標設定
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、 それを基に本学期の目標設定について確定する	予習) 前学期の省察と本学 期の目標設定の下書き 復習) 本学期の目標設定の 清書
3	人間関係について考える 1	出会いから友人関係が深まるまで①	予習) p155-p163 をよく読 んで、意見を考えておく
4	人間関係について考える 2	出会いから友人関係が深まるまで②	予習) p163-p167 をよく読 んで、意見を考えておく
5	多文化共生とは何か	多文化共生とコミュニティ心理学	予習) p22-p31 をよく読ん で、意見を考えておく
6	大学コミュニティーにおける多文化共生 1	日本における留学生政策の変遷と現状	予習) p265-p270 をよく読 んで、意見を考えておく
7	大学コミュニティーにおける多文化共生 2	多文化共生に向けた教育整備の必要性和文化的多様 性の尊重	予習) p270-p276 をよく読 んで、意見を考えておく
8	大学コミュニティーにおける多文化共生 3	異文化交流を妨げる問題と肯定的な異文化間交流の ための枠組み 共生を目指すさまざまな取り組み-教育的介入-	予習) p276-p289 をよく読 んで、意見を考えておく
9	国際交流企画の立案と実施 1	企画案を発表し、ディスカッションを行う	予習) 企画案を考える
10	国際交流企画の立案と実施 2	企画内容(目的、対象、場所など)と実施の手順を検 討する	予習) 企画内容を考える
11	国際交流企画の立案と実施 3	案内のちらしやホームページを作る 広報を始める	予習) 案内の内容と方法を 考える
12	大学コミュニティーにおける多文化共生 5	大学キャンパスにおける共生の実現に向けて	予習) p70-p77 を熟読し、 意見を考えておく
13	国際交流企画の立案と実施 4	企画を実施する	予習) 企画の準備をする 復習) リフレクションシー トに記入する
14	国際交流企画の立案と実施 5	実施した企画を発表形式で振り返る 課題作成について情報を得る	予習) 発表の準備 復習) 課題のテーマと構成 を考える
15	振り返り	授業全体のまとめ、振り返り	予習) 授業全体を振り返り、 学んだことを纏めておく

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習ⅡAに引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「身体」に関連する問題を設定し、それについての答えをみつけるための哲学的思考能力に加え「論証力」を培うことを目的とする。そのために、論文執筆や実践のための指導計画に必要な技術習得を目標とする。卒業論文の執筆にあたっては「体育」「スポーツ」およびそれに関連するテーマを個人の関心や問題意識に基づいて設定し、本演習を通じて各々に合った研究方法を選定し取り組む。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）の中で論文のストーリーを創り上げていくことを重視する。</p>							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	「体育」「スポーツ」「身体」に関することがらを人文科学的に考察できる。体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や実践ができる。				研究発表や実践の展開内容	30%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				研究発表の展開内容	50%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				研究発表や実践後の議論内容	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション（研究発表）では各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジュメが作成されているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。 ・プレゼンテーション（実技指導）では、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。 							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する。適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を対話形式で実施する。 ・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする哲学的スタンスである。 ・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。 							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』『高等学校学習指導要領解説 保健体育』</p> <p>参考書：『各県教員採用試験過去問題集 保健体育』『教員採用試験参考書 保健体育』</p> <p>『教員採用試験ステップアップ問題集』</p> <p>指定図書：『月刊 体育科教育』『現代スポーツ評論』『新版 論文の教室』（戸田山 和久：2012）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>「体育」「スポーツ」「身体」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報を蓄積すること。それが後に卒業論文の執筆、教員採用試験、現場実践につながります。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	前学期の省察と研究テーマの再構成	予習：前学期の省察と本学期的目標設定を下書き 復習：本学期的目標設定を清書
2	「論文」という伝え方Ⅱ	「問い」から「答え」にたどり着くまで	・指定図書『新版 論文の教室』を通読
3	レジュメの作成Ⅳ	主張の抽出と思考の言語化Ⅳ	・各自関心のあるキーワードで体育・スポーツ学系の論文を検索し通覧
4	指導案の作成Ⅳ	授業計画と種目の教材化Ⅳ	・学習指導要領を通読
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問	・指定された範囲を予習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表	・テーマに適切な先行資料をもとにレジュメを作成 ・担当者は発表準備
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業を展開	・設定された種目のルール、学習指導要領を確認 ・担当者は指導案作成
15	まとめ	前期授業のまとめと夏季休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
Building on the previous semester, this course aims to introduce students to primary research and data collection. Student will complete a simple research project that involves creating a simple questionnaire for the purposes of investigating a research topic. Ethical collection of data will be introduced. Following this, students will learn the step necessary for reporting the results.							7, 11,12
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	Students will write a correctly formatted research paper				Report	10%	
情報収集、 分析力	Students will be able to collect and organize primary data in an ethical manner				Assignments	50%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about a research topic in a way that informs and engages their audience				In-class engagement	10%	
	Students will write a short research paper based on a topic provided to them				Report	30%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 10% Assignments (Complete weekly assignments and preparation work for projects): 50% Report (Complete a short research paper which uses primary data to address a given topic) 40%							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss how to find information about a topic and present their findings. From this, they move on to preparing for a research paper. Working in stages, students research a topic in order to answer a specific research question. Students will discuss and present their ideas as well as write. この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書：Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> Introduce the course and review the syllabus 	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what & how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email 	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> Conference with seminar teacher about personal goals for the semester 	Students meet with teacher about rubric
4	Methods of data collection	<ul style="list-style-type: none"> Why collect data? How to collect data? 	Students make a questionnaire to collect data about a topic
5	Research ethics	<ul style="list-style-type: none"> What are research ethics? How to conduct research ethically? Research ethics paperwork 	Revise questionnaire
6	Collecting data	<ul style="list-style-type: none"> Students collect data from each other and discuss preliminary results 	Summarize raw data into charts and graphs
7	Reporting data collection methods	<ul style="list-style-type: none"> Why report the data collection method? What should be reported? Useful expressions for reporting 	Write a simple report of the collection methodology
8	Analyzing data results	<ul style="list-style-type: none"> Present summary of data collection How to report such data 	Write a simple summary of data results
9	Discussing data results	<ul style="list-style-type: none"> Discussion about what the results mean and how it answers the research question 	Write a simple discussion of the results
10	Writing workshop	<ul style="list-style-type: none"> Putting everything together to answer the main research question Clarify students' questions about primary research 	Revise writing based on feedback
11	Draft paper first half	<ul style="list-style-type: none"> Workshop on the first half of students' research paper 	Write the first half of the paper
12	Draft paper second half	<ul style="list-style-type: none"> Workshop on the second half of students' research paper 	Improve first half. Write the second half of the paper.
13	Final paper formatting	<ul style="list-style-type: none"> Best practices for formatting academic papers 	Improve the second half. Adjust formatting.
14	Mini-presentation	<ul style="list-style-type: none"> Students present and discuss the topic of their papers 	Give presentation about topic and discuss.
15	Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> Students receive feedback on their final papers 	Receive feedback about paper. Make final changes.

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
地域課題の理解を踏まえ、既存の観光素材の組み合わせによる新しい価値づくりの方法を研究します。日本型DMOにおける事例など地域観光発信における様々なモデルを研究し、対象地域にあった組織作りや手法を採択し、魅力の再定義による観光資源の発信、連動したプロモーションなど具体的な取り組みを行います。同時に関連法令やコンプライアンスの順守、関係者間の信頼醸成など、企画立案や運営実行を行う上でのさまざまな配慮・注意点についても理解を深めます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	地域課題解決への取り組みと参加者のメリットが明確に示された企画案が作成できる。				企画書作成 (ポートフォリオ)	30%	
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				授業への積極的な姿勢	50%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> 論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。 課題に積極的に取り組み、自分の考えも説明することができる。 				プレゼンテーション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>企画書は様式や見やすさに加え、独自性と表現力、実行可能性の観点から評価します。実行可能性については、想定されるステークホルダーや外部の意見も取り入れて評価します。</p> <p>また企画やプレゼンテーションの出来不出来だけではなく、普段からの議論への参加度も勘案します。講義への参加貢献度は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p>							
授業の概要							
<p>グループ(または個人)で選択したテーマに沿って、地域課題解決、観光振興に関わる事業計画を策定し、発表を行います。計画に際しては、より高い実現性とリアリティを最大限に追求するため、外部の団体・法人、旅行・観光業などとの連携を想定して、具体的な計画案を策定します。ゼミ内での発表にとどまらず、想定されるステークホルダー、関係者へのプレゼンテーションも行うため、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間45分とします。</p>							
教科書・参考書							
教科書/参考書/指定図書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。自身のポートフォリオにおける大きなフットプリントとなるよう、自分の能力を最大限に表現し、自身の成長につなげられるアウトプットになることを期待します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	メンバー自己紹介 演習概略および目標設定	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してこること
2	個人目標の設定	個別面談による目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる。
3	企画の前提に関する整理	地域課題・旅行市場、情報発信などの基礎知識に関するおさらい。	(予習) これまでの自分の学びを整理してくる。
4	グループ編成と研究テーマの検討	事業化企画コンセプトについての概要(課題設定・狙い)を発表・共有する。	(予習) 事業家テーマの論点を明確にする。 (復習) 企画の方向性を絞り込む。
5	グループワーク	事業計画の素案作成・方向性の検討 グループ内の役割を決め、目標とスケジュールを設定する。	(予習) 企画概要を図式化する。
6	グループワーク	担当講師による企画内容の実査、方向性の検討	(予習) 計画の概要、到達目標を決定
7	グループワーク	実地調査・情報収集	(予習) 調査拠点の精査と事前確認
8	グループワーク	実地調査・情報収集	(予習) 調査拠点の精査と事前確認
9	グループワーク	計画書作成作業(調査による企画内容の修正確認)	(予習) 調査報告と企画見直しについてレポート
10	グループワーク	計画書作成作業(企画書のフレーム作成)	(予習) 各パートの原稿を収集しておく。
11	グループワーク	計画書作成作業(プレゼンテーション作成)	(予習) 画像やコンテンツの整理。
12	プレゼンテーション①	事業計画プレゼンテーションと質疑	(予習) 発表準備 (復習) 質疑・コメントの計画反映
13	プレゼンテーション② 商品事業化の総評	ステークホルダー、関係者の視点からの提案可能な事業化に向けた修正点の指摘と可能性を考える。	(予習) プレゼン調整・修正
14	ディスカッション	商品事業化作業を振り返って今後の研究に役立てるためのポイントや研究の方向性についての意見交換。	(予習) 自身の反省点をまとめておく
15	まとめ	意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) 今後の自分の目標について考えておく。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
テーマ：地域文化資源の研究と展示 専門演習ⅡAで実施した地域文化資源に関するフィールドワークを再検討し、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「研究」「展示」機能について学び、収集・記録した資料を研究して展示する活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。							⑤⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の研究・展示の方法を身に付けることができる。				展示製作への参加態度	30%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				研究成果レポート	40%	
コミュニケーション力	展示作業およびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	ゼミ生の研究発表を聞き、内容を理解することで多様性を理解すると共に、それを評価できる能力を養う。				研究発表	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習は展示製作を中心とし、それに至るまでのグループワーク、施工作業への取り組み・態度を総合的に判断する。 ・一連の調査・展示・学習で得られた研究成果をレポートにまとめ、その提出を必須とする。 							
授業の概要							
演習の方法は以下の手順で行う。 1. 博物館における研究および展示の目的・意義を確認 2. 展示のテーマ・目的・場所・日程・方法についてグループワーク 3. テーマに関する文献資料の収集と分析 4. 展示の実施（専門演習ⅡAで行ったフィールドワークの成果を基に、大学祭での実施を目標に展示製作を行う。） 5. 展示製作の中で興味を持った分野について研究を行い、研究レポートを執筆 6. 研究レポートを基に研究発表を行い、ゼミ内で相互評価を実施 7. 研究成果レポートを纏める過程で、卒業研究のテーマについても考察 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：使用しない 参考書：授業中に指示する 指定図書：デビッド・ディーン『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』丸善出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この演習は、博物館学芸員としての基礎である展示能力および研究能力を習得するものであり、展示作業を通じて実務能力を習得するだけでなく、地域文化資源に興味を持つ好奇心や、自分自身で深めていく検討能力も養ってほしい。また、展示物の製作にはセンスが求められることもあるため、博物館に限らず様々な展示、ポスター、チラシなどを見てセンスを磨いてほしい。 ※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。 あわせて展示製作（パネル、題箋などを含む）の方法について講義する。	予習：シラバスを読む 復習：展示製作の方法を確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	展示内容の選定	ゼミ内でグループワークを行い、展示のテーマ・内容・展示方法を選定する。 併せて、ポスター等広報についても検討する。	予習：展示テーマの考案 復習：広報物のデザイン等を考案
4	展示製作①	展示物（パネル、題箋類）を制作する。 あわせて、広報物も制作する。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
5	展示製作②	展示物（パネル、題箋類）を完成する。	予習：展示内容を再検討 復習：展示施工の方法について再確認
6	展示準備・施工	大学祭期間中に展示を公開するため、具体的な施工の準備を行う。 また、大学祭期間には、展示の運営を行う。	予習：展示準備 復習：展示作業の自己評価・自己分析
7	展示の反省	ゼミ内でグループワークを行い、展示の反省点・改善点を協議し、次年度以降の履修生に向けての提言をまとめる。	予習：展示内容の自己評価・自己分析 復習：自分自身の改善点を把握する
8	研究方法の解説	博物館および地域文化資源をテーマとした研究の方法について講義を行う。	予習：人文系分野の研究手法について調べる 復習：授業内容を見直し、自分に合った研究方法を考える
9	研究テーマの設定	フィールドワーク、展示作業などを通じて興味を持った分野を選択し、卒業研究につなげるためのテーマを決定する。 また、卒業研究に向けての面談を実施し、テーマの妥当性や研究の進め方について指導する。	予習：研究テーマの考案 復習：研究テーマを決定
10	レポート作成の準備	研究テーマに基づいたレポートを作成するための文献調査を行う。	予習：専門演習ⅡAで配布された「レポート執筆要領」を再読 復習：作成方法の確認
11	レポート作成①	レポートを作成する。	予習：レポート作成準備 復習：レポート作成
12	レポート作成②	レポートを作成し、ポートフォリオを通じて提出する。 また、レポートを基に研究発表を行うので、発表準備を行う。	予習：レポート作成 復習：研究発表の練習、発表資料作成
13	研究発表①	一人 15 分程度の研究発表を行う。（質疑応答含む） 発表者以外は発表を評価し、発表者に質疑応答やコメントカードの形で伝達する。	【発表者】 予習：研究発表の練習 復習：レポートへの指摘事項の反映
14	研究発表②		【聞き手】 予習：発表評価方法の確認
15	後期レポートの受理	発表時の指摘事項を踏まえ、修正した研究成果レポートを提出し、後期のまとめを行う。	予習：レポート提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB (CF302)			担当教員	宮本 彩		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ科学の基本的な研究アプローチを学び、自分自身の競技・スポーツへの理解を深めることを目的とする。また、成果集の作成や成果報告会での発表を通して、論理的に自分自身の意見をまとめることを学ぶ。さらに、取り組みをまとめ、公表していくプロセスや方法を実践する。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツ科学に関する基礎知識を理解し、論理的に説明することができる。				レポート及びプレゼンテーション	30 % (各 15%)	
情報収集、分析力	文献等を基にスポーツ科学に関する情報や知識を収集し、考察することができる。				レポート (成果報告書)	30 %	
コミュニケーション力	自分自身の経験や文献等から得た知識を基に、他者に対してプレゼンテーションすることができる。また、ディスカッションにおいて、自分の意見を述べるすることができる。				プレゼンテーション ディスカッション	20 %	
協働・課題解決力	測定実施や成果報告会に向けて、主体的に取り組むとともに、他者と協力することができる。				授業態度	20 %	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内での取り組みにおいてレポートを作成する。また、本年度の取り組みの成果を成果報告書として作成する。これらレポートの出来栄（論理的に文章が書けているかなど）について評価し、評価比率は全体の45%とする。なお、レポートの提出はポートフォリオを通じて行い、学生個々への評価のフィードバックを行う。</p> <p>また、授業内での取り組みにおいてプレゼンテーションやディスカッションを複数回行う予定である。自分自身の意見を端的かつ論理的にまとめられているかについて評価する。なかでも、成果報告会でのプレゼンテーションを重視する。評価比率は全体の35%とする。</p> <p>取り組みに対する主体性と他者との協力について評価する。評価比率は全体の20%とする。</p>							
授業の概要							
<p>この授業ではスポーツ科学の基本的な研究アプローチを学び、各自が専門競技に関する研究を行っていく。また、その取り組みを成果報告会ならびに成果報告集としてアウトプットする。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない</p> <p>参考書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）</p> <p>スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法―トレーニング科学の活用テクニック―（大修館書店）</p> <p>指定図書：アスリートとして知っておきたいスポーツ動作と身体のしくみ（ナツメ社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本ゼミの内容に興味を持ち、積極的かつ主体的に取り組んでほしい。</p> <p>ゼミ時間外においても、予習・復習として課題に取り組む必要性があることを理解しておいてください。</p> <p>いずれの取り組みも自分だけで行うことはできません。他者と協力することを最重要視します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	前期の振り返りと本年度の目標設定の見直し	前期の大学での学びや取り組みについて振り返り、本年度の目標設定の再確認ならびに見直しを行う。	予習：前期の学習を振り返り
2	データ収集①	研究目的に沿った測定を実施し、データの収集を行う。	復習：測定データの整理
3	データ収集②	研究目的に沿った測定を実施し、データの収集を行う。	復習：測定データの整理
4	データ分析③	測定で得たデータの取りまとめと分析を行う。	復習：測定データの分析
5	データ分析④	測定で得たデータの取りまとめと分析を行う。	復習：測定データの分析
6	データの解釈①	先行研究と照らし合わせながら、得たデータについて解釈を行う。	予習：文献・資料の収集
7	成果報告書の作成	論文の文章構成（研究背景、方法、結果、考察）を学び、これまでの取り組みをまとめる。	復習：成果報告書の作成
8	成果報告会に向けた準備①	成果報告会を企画（タイムスケジュールや発表内容の取りまとめ）する。	復習：成果報告書の作成
9	成果報告会に向けた準備②	成果報告会に向けたプレゼンテーションの準備および発表練習を行う。	復習：成果報告書の作成
10	成果報告会に向けた準備③	成果報告会に向けたプレゼンテーションの準備および発表練習を行う。	復習：成果報告会のプレゼンテーション準備
11	成果報告会	本年度の各自の研究成果について報告するとともに、学生間でディスカッションを行う。	予習：成果報告会のプレゼンテーション準備
12	成果報告会の振り返り	成果報告会ならびにそれまでの取り組みについて、全体討議にて振り返る。	復習：成果報告書の修正
13	学術交流	他のグループ（担当教員指導の専門演習 I B）の成果報告会に出席する。	復習：成果報告書の修正
14	成果集まとめ 卒業論文のテーマ検討	成果書の取りまとめを行う。 卒業論文に向けてテーマの検討を行う。	予習：成果報告書の修正
15	まとめ	本年度の取り組みを振り返る。 卒業論文に向けたテーマを設定する。	予習：卒業論文のテーマ検討

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅡB(CF302)			担当教員	元嶋 菜美香		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
スポーツ心理学に関する文献の輪読を通して、運動学習・臨床心理・健康心理の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識を専門的に実施している競技に応用して考えることができるようにする。さらに、発表されるそれぞれの研究論文の内容を理解し、研究課題等についての討議を通して卒業論文作成に繋がるよう各自の研究課題を具体化する。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究計画を立て、目的に対応した調査・実験方法を選択することができる。 研究テーマに関する専門用語を用いて、研究計画書を作成することができる。				研究計画書	40%	
情報収集、分析力	研究テーマに関する参考文献を収集し、その内容について分析することができる。				プレゼンテーション資料	30%	
コミュニケーション力	スポーツ場面における心理的要因や研究方法等について自身の意見を発表し、ディスカッションに積極的に参加することができる。				プレゼンテーション	30%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション資料：プレゼンテーションを行うにあたり、担当箇所に記載されている基礎知識を理解し要約できているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、卒論に関連するスポーツ心理学に関する文献を選択し、精読・要約したプレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、ゼミ内でディスカッションを行い、卒業論文のテーマを決める。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>後半は、最終的には研究方法を決定したうえで、研究倫理審査申請書および研究計画書を作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）</p> <p>参考書：スポーツ心理学事典（日本スポーツ心理学会，2008）心理学論文の書き方（松井，2006）</p> <p>指定図書：よくわかるスポーツ心理学（ミネルヴァ書房，2012）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、時間厳守や報告・連絡・相談など、大学生としてふさわしい行動をするように努めること。グループワークが中心となるので、他者の心を思いやり協調性をもった行動をとること。</p> <p>※本演習を選択するものは、次のコースを履修することが望ましい：スポーツツーリズムコース</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション (1)	自己紹介、ゼミの進め方	シラバス及び参考書の確認
2	オリエンテーション (2)	卒業論文のテーマの検討、プレゼンテーション担当者の決定、レジュメの作成方法	卒業論文のテーマについて考える
3	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
4	プレゼンテーション (1)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成
5	プレゼンテーション (2)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成
6	プレゼンテーション (3)	テーマに関する参考文献のプレゼンテーションおよびディスカッション	各自の参考文献の精読・要約・レジュメ作成
7	キッズスポーツ調査	キッズスポーツに参加し、調査を行う。	調査内容およびデータ入力方法を確認
8	キッズスポーツ計画	キッズスポーツの実施計画を立て、役割分担を行う。	キッズスポーツのメニューを考える
9	キッズスポーツの実施	キッズスポーツを実施し、課題点を挙げる。	キッズスポーツのメニューを確認する
10	実験・調査計画 (1)	調査・実験計画書の作成方法	卒業論文の調査・研究を計画する
11	実験・調査計画 (2)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する
12	実験・調査計画 (3)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する
13	実験・調査計画 (4)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する
14	実験・調査計画 (5)	卒業論文に関する調査・実験を計画する	卒業論文の調査・研究を計画する
15	卒業研究の作成	卒業研究の序論、題目を作成する	卒業論文の題目作成